

学校要覧

MISSION

豊かな人間性を有し創造力に富む
実践的な技術者の育成
地域における知の拠点としての社会貢献





■校章とその由来

二つの高専の伝統を守りつつ、新しいイメージになるように考えられています。
中央の「K」は古の良さと新しき時代を融合させた書体で力強さを出しています。
「K」から枝が生え実った2個のオリーブは高松キャンパスと詫間キャンパスを
表しています。色は、知的で誠実な印象を与える配色としました。



高松キャンパス



詫間キャンパス

卷頭言

国立香川高等専門学校は、ともに長い歴史を持つ高松工業高等専門学校と詫間電波工業高等専門学校が高度化再編し、平成 21 年 10 月 1 日に発足しました。本科 7 学科、専攻科 2 専攻を有する高等専門学校です。香川高専では、教育研究施設・設備の整備および充実を図り、高松、詫間両キャンパスの連携を強化しながらそれぞれの特徴を活かし、魅力的な教育環境を提供しています。本科では、中学校卒業後の 5 年間について、一般教育と専門教育、ならびに実践的技術教育を融合したカリキュラムを設定し、科学技術の急速な進展に対応できる能力を備え、知と技と心の調和のとれた、「豊かな人間性を有し、創造力に富む実践的な技術者の育成」を行っています。5 年間の学習で、大学とほぼ同程度の実力を身に付けることができます。さらに本科卒業後、専攻科で 2 年間の学習をすることにより、大学卒業と同じ学士（工学）の学位を取得することができます。

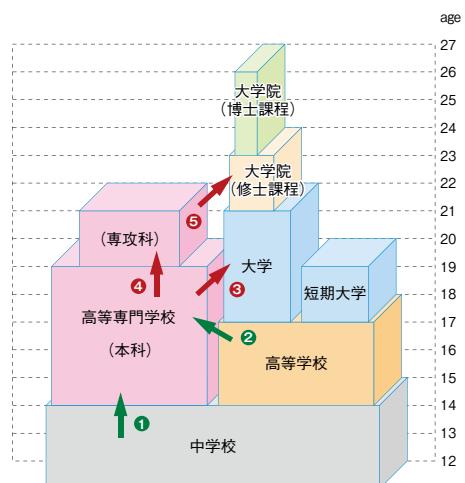
本科は、高松キャンパスに、創造基礎工学系の機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科の 4 学科があります。創造的「ものづくり」の領域で活躍できる技術者を育成しています。また詫間キャンパスに、電子情報通信工学系の通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科の 3 学科があります。先端的「電子情報通信」の領域で活躍できる技術者を育成しています。専攻科は、高松キャンパスに創造工学専攻が、詫間キャンパスに電子情報通信工学専攻があります。知的刺激に満ちたカリキュラムとグローバル教育の実施、特別研究の充実を図っています。

香川高専では、学生寮、学生相談室、キャリアサポートセンター等を備え、学生の福利厚生、勉学並びに就職支援やインターンシップ等のキャリア支援のための体制を整えています。さらに、国際学術交流を推進する国際交流室、産業界と共同で地域連携を進める地域人材開発本部等を設置して幅広く教育・研究を行い、「地域における知の拠点としての社会貢献」を進めています。海外の大学との国際学術交流協定の締結、学生の海外派遣、また企業との共同研究等を盛んに行ってています。

高松高専と詫間電波高専の長い歴史と伝統のもと、卒業生は、香川高専に高度化再編後を加え、20,200 名に及びます。卒業生は民間企業や、官公庁、大学、研究所等において、産業・技術・研究の第一線で幅広く活躍しており、優れた実力と堅実な業務は各方面から高く評価されています。香川高専は、これまでの伝統を継承しつつ、新しい歩みを進め、発展して参ります。皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。



香川高等専門学校 校長
安蘇芳雄



- ① 中学校卒業段階の学生が入学
- ② 高校卒業者は高専への編入資格がある
- ③ 高専卒業者は大学への編入の資格がある
- ④ 高専卒業者は高専の専攻科に進学する資格がある
- ⑤ 専攻科を修了して「学士」を得た者は、大学院への入学資格がある

目 次

卷頭言	
本校の概要	1
創立の趣旨	
沿革	
使命・教育目的	3
香川高等専門学校の使命	
教育目的	
組織	4
組織図	
役付職員	
現員	
本科	6
一般教育	
[創造基礎工学系]	
機械工学科	10
電気情報工学科	12
機械電子工学科	14
建設環境工学科	16
[電子情報通信工学系]	
通信ネットワーク工学科	18
電子システム工学科	20
情報工学科	22
専攻科	24
創造工学専攻	
機械工学コース	
電気情報工学コース	
機械電子工学コース	
建設環境工学コース	
電子情報通信工学専攻	
電子情報工学コース	
電子情報通信専修コース	
国際交流活動	28
国際学術交流	
学生の国際交流活動	
香川高専・他高専・高専機構が主催・共催した	
学生の国際交流活動	
香川高専グローバルエンジニア研修プログラム	
国際シンポジウム等の開催	
外国人留学生	
地域人材開発本部	30
地域人材開発本部組織図	
スタッフ	
みらい技術共同教育センター	
地域イノベーションセンター	
香川高専教員の研究分野、キーワード	
産学官連携活動	
地域社会連携活動	
研究活動等	34
科学研究費助成事業	
受託研究	
共同研究	
その他競争的資金・助成金	
情報処理施設	36
情報インフラストラクチャ	
情報基盤センター	
技術教育支援センター	37
学生相談等施設	38
学生相談室	
キャリアサポートセンター	
図書館	39
学生寮	40
清雲寮	
七宝寮及び紫雲寮	
福利厚生施設	41
自彊会館	
福利センター	
職員集会所	
和敬館	
合宿研修所	
学生数と志願者状況	42
学生数	
入学志願者数と入学者数	
学生組織	43
学生会組織図	
部活動及び同好会	
進路状況	44
本科生	
専攻科生	
大学編入先一覧 本科生	
大学院入学先一覧 専攻科生	
就職先一覧	
施設配置図	46
財政	46
収入・支出	
寄附金受入状況	
アクセスマップ	48
校歌	49

本校の概要

◇創立の趣旨

近年、社会の変化に伴って国立高専を取り巻く環境は大きく変化し、それに対応して高専には自ら変革することが強く求められてきています。即ち、あらゆる分野のグローバル化が進展し、科学技術の進歩と社会の高度化・複雑化が急速に進み、高専教育においても時代に対応した準学士課程の充実と専攻科の高度化が必要になっています。一方、少子・高齢化による社会の年代構成の変化とともに、子供達の理科離れ現象により高専の志願者数は減少傾向にありますが、社会の発展の基盤部分を支えていくという社会的責任の下に、高専としては、従来以上の高度な実践的・創造的技術者の育成を目指さなければなりません。

中央教育審議会大学分科会においては、高等専門学校特別委員会が設けられ、「高等専門学校教育の充実について」検討され、平成20年12月24日に16年ぶりで答申がなされています。そこには、開校以来高専が高い評価を得ていること、知識基盤社会の到来に対する技術の高度化に向けて、科学技術創造立国を実現するという観点からも一層の教育の充実・強化が必要であることなどが述べられています。また、学習意欲の高揚を図り、国際的な活躍が期待できる学生を育てるために、他の教育機関や産業界、地域社会との連携を進めることの必要性が提言されています。

これらの状況を踏まえて、香川地区では二つの高専の特色を活かしつつ、高度化再編を図り、本科を創造基礎工学系（高松キャンパス）と電子情報通信工学系（詫間キャンパス）の2工学系に大括りして、専攻科は本科の各工学系に対応した2専攻として、新しく「香川高等専門学校」を創立しました。この新高専の使命は、「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」と「地域における知の拠点としての社会貢献」としています。そして、教育研究基盤並びに管理運営基盤の強化を基に、広い視野と創造性・問題解決能力に富む実践的な技術者を育成するとともに香川県の産業界や行政と連携を深めて地域の活性化に貢献します。さらに、四国地区高専の拠点校として、高専間の連携を図り、産業界や大学との広域連携体制を構築していきます。



◇沿革

高松工業高等専門学校（高松キャンパス）

昭和 37（1962）年 4月

機械工学科 2 学級、電気工学科 1 学級からなる国立高松工業高等専門学校を創設
初代校長に増山義雄（大阪府立大学教授）就任
昭和 41（1966）年 4月
土木工学科 1 学級を増設

昭和 49（1974）年 4月

第二代校長に立松秋雄（文部省大学学術局科学官）就任

昭和 57（1982）年 4月

第三代校長に國松治男（文部省初等中等教育局審議官）就任

昭和 61（1986）年 6月

第四代校長に河西三省（京都大学名誉教授）就任

平成 2（1990）年 4月

機械工学科 1 学級を改組し、制御情報工学科を設置

平成 3（1991）年 4月

第五代校長に山本清（日本国際教育協会専務理事）就任

平成 6（1994）年 4月

土木工学科を建設環境工学科に改組

平成 8（1996）年 7月

第六代校長に平川忠男（大学入試センター副所長）就任

平成 11（1999）年 4月

専攻科（機械電気システム工学専攻、建設工学専攻）を設置

平成 13（2001）年 4月

電気工学科を電気情報工学科に名称変更

第七代校長に早野浩（文部科学省大臣官房文教施設部長）就任

平成 16（2004）年 4月

独立行政法人国立高等専門学校機構高松工業高等専門学校に移行

平成 17（2005）年 4月

第八代校長に塩谷幾雄（広島大学理事・副学長）就任

平成 20（2008）年 10月

第九代校長に嘉門雅史（京都大学大学院地球環境学堂長、地球環境学舎長）就任

香川高等専門学校

平成 21（2009）年 10月

高松工業高等専門学校と詫間電波工業高等専門学校を高度化・再編し、独立行政法人国立高等専門学校機構香川高等専門学校を設置
創造基礎工学科（機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科）、電子情報通信工学科（通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科）を設置

専攻科（創造工学専攻、電子情報通信工学専攻）を設置

初代校長に嘉門雅史（高松工業高等専門学校長）就任

平成 25（2013）年 1月

香川高等専門学校創基 70 周年・高専創立 50 周年記念式典挙行

平成 26（2014）年 4月

第二代校長に八尾健（京都大学大学院エネルギー科学研究科教授・工学部教授、前エネルギー科学研究科長）就任

平成 30（2018）年 4月

第三代校長に安蘇芳雄（大阪大学教授、産業科学研究所 前産業科学ナノテクノロジーセンター長）就任

詫間電波工業高等専門学校（詫間キャンパス）

昭和 18（1943）年 10月

官立無線電信講習所大阪支所を大阪府中河内郡矢田村に設立

昭和 20（1945）年 4月

官立大阪無線電信講習所と改称

昭和 24（1949）年 4月

香川県三豊郡詫間町に移転、国立学校設置法の施行により詫間電波高等学校と改称

昭和 46（1971）年 4月

国立詫間電波工業高等専門学校を設置

初代校長に石黒美種（徳島大学工学部教授工学博士）就任

昭和 51（1976）年 4月

電波通信学科 2 学級、電子工学科 1 学級に改組

昭和 54（1979）年 4月

第二代校長に田中哲郎（京都大学工学部教授工学博士）就任

昭和 55（1980）年 4月

電波通信学科 2 学級を電波通信学科 1 学級、情報工学科 1 学級に改組

昭和 60（1985）年 4月

電子制御工学科 1 学級を増設

昭和 62（1987）年 4月

第三代校長に浅井健次郎（京都大学理学部教授理学博士）就任

平成元（1989）年 4月

電波通信学科を情報通信工学科に名称変更

平成 3（1991）年 4月

第四代校長に片山健一（京都大学化学研究所教授理学博士）就任

平成 8（1996）年 4月

第五代校長に布川晃（京都大学工学部教授工学博士）就任

平成 13（2001）年 4月

第六代校長に竹内賢一（京都大学大学院工学研究科教授 Ph.D）就任

平成 16（2004）年 4月

独立行政法人国立高等専門学校機構詫間電波工業高等専門学校に移行
専攻科（電子通信システム工学専攻、情報制御システム工学専攻）を設置

平成 18（2006）年 4月

第七代校長に高畠秀行（高松工業高等専門学校 機械工学科教授）就任

使命・教育目的

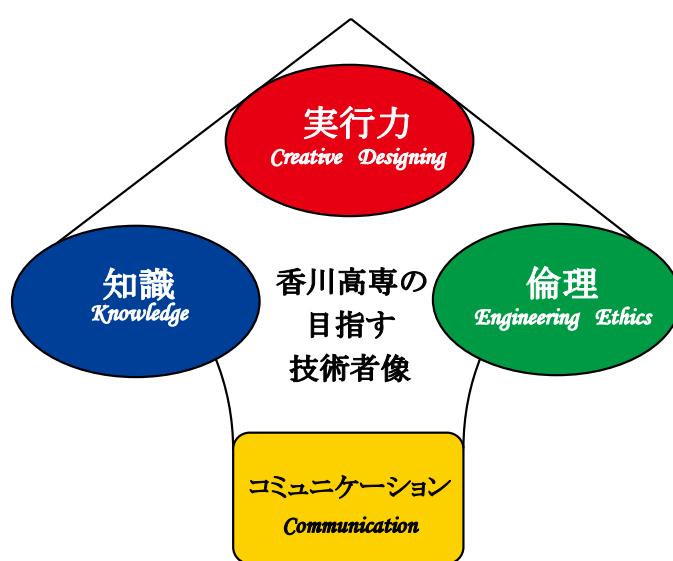
◇香川高等専門学校の使命

豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成
地域における知の拠点としての社会貢献

◇教育目的

本校では、教育目的を次のように設定しており、教育課程の具体的な学習・教育目標はこれを基本として構成されています。

- ◇ 広い視野を持ち、自然との調和を図り、人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。
(倫理)
- ◇ 科学技術の基礎知識と応用力を身につけ、時代の変遷に対応できる技術者を養成する。
(知識)
- ◇ 課題解決の実行力と創造力を身につけ、社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。
(実行力)
- ◇ 物事を論理的に考え表現する能力を身につけ、国際的に活躍できる技術者を養成する。
(コミュニケーション能力)



この図案は、**知識・倫理・実行力**を三位一体として、技術を磨きつつ人格の形成を目指し、これを基本として論理的な思考力・表現力でグローバルな**コミュニケーション**を通して社会に貢献すると共に、その影響・効果に責任を持ち、常に技術の修得に上昇志向で取り組むことを旨としています。

赤は情熱的な果敢な精神を、緑は穏やかな癒しの精神を、青は知識の泉を表しています。同時に RGB は光の三原色であり、上記の三位一体の概念を含ませています。これに加えて、オレンジは自由な精神とグローバル性を表しています。

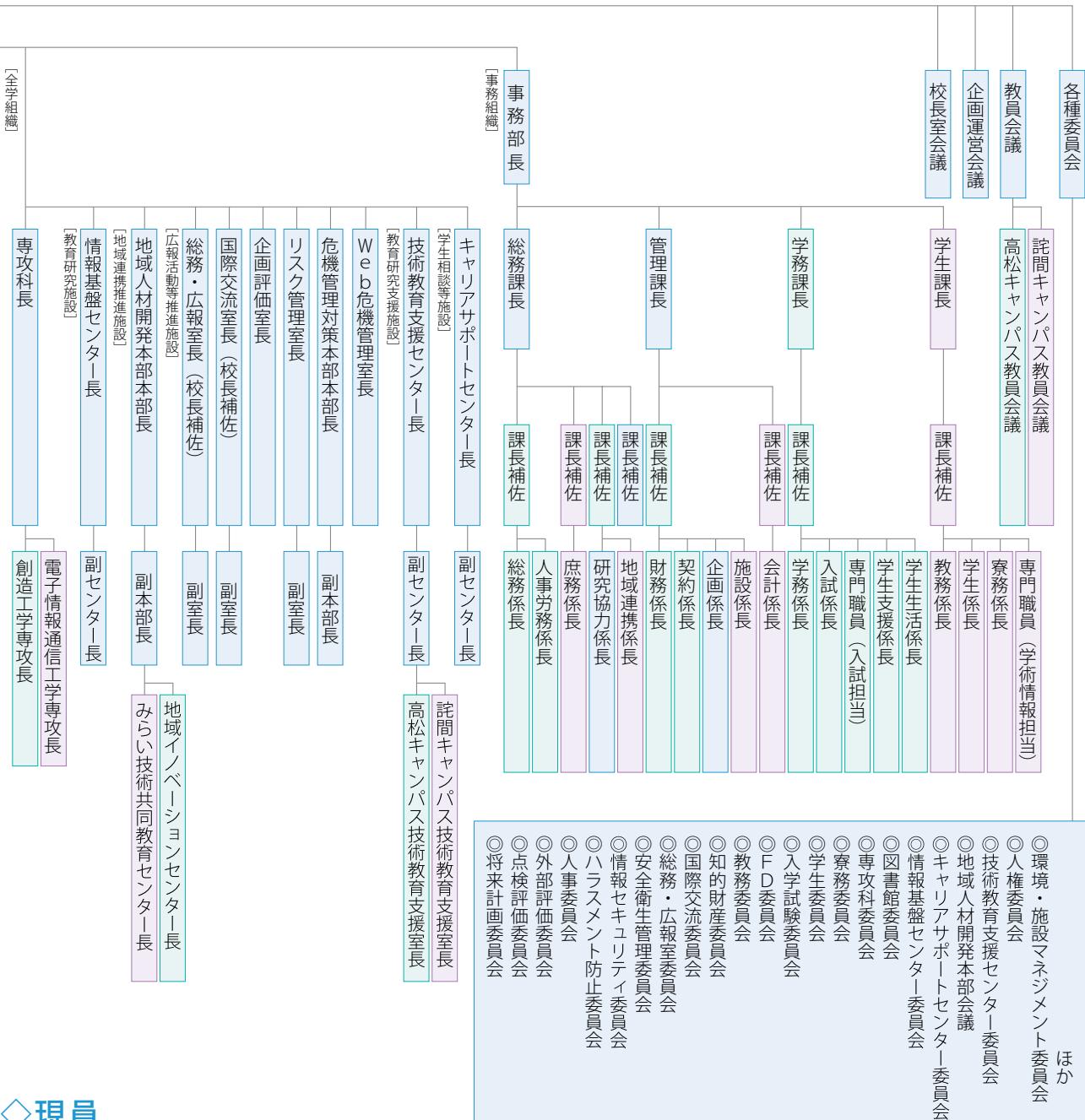
組織

◇組織図



◇役付職員

役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
校長	安蘇 芳雄	副校長	澤田 土朗	専攻科長	重田 和弘
副校長	木原 茂文	教務主事 (校長補佐)	内田由理子	創造工学専攻長	重田 和弘
教務主事 (校長補佐)	岡野 寛	学生主事 (校長補佐)	一色 弘三	(教育研究施設)	電子情報通信工学専攻長
学生主事 (校長補佐)	長原しのぶ	寮務主事 (校長補佐)	畠 伸興	情報基盤センター長	長岡 史郎
寮務主事 (校長補佐)	由良 謙	一般教育科長	南 貴之	地域連携推進施設	白石 啓一
一般教育科長	澤田 功	通信ネットワーク工学科長	塙沢 隆広	地域イノベーションセンター長	岩田 弘
機械工学科長	山崎容次郎	電子システム工学科長	矢木 正和	総務・広報室長 (校長補佐)	みらは技術共同教育センター長
電気情報工学科長	辻 正敏	情報工学科長	徳永 修一	(広報活動等推進施設)	嶋崎 真一
機械電子工学科長	徳永 秀和	図書館長	富士原伸弘	国際交流室長 (校長補佐)	総務・広報室長 (校長補佐)
建設環境工学科長	向谷 光彦	(教育研究施設)	(学生相談室長)	(教育研究支援施設)	太良尾浩生
図書館長	田口 淳	(学生相談等施設)	金澤 啓三	(学生相談等施設)	技術教育支援センター長
(教育研究施設)					木原 茂文
(学生相談等施設)	鳥羽 素子				キャリアサポートセンター長
					井上 忠照
				事務部長	入木田浩幸
				総務課長	小西 誠二
				管理課長	江戸 喜彦
				学務課長	宮脇みどり
				学生課長	庵原 浩司



◆ 現量

教員職員數

区分	校長	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
現員	1	39	41	17	17	0	115

令和元年5月1日現在

事務部職員数

区分	事務系	技術系	合計
現員	57	24	81

令和元年5月1日現在

本科

一般教育科

Department of General Education

一般教育は社会人としての教養を養い、各専門学科に必要な基礎学力を培います。また、専門教育と補い合い、学生を、総合的判断力を持つ創造性豊かな技術者に育てることを目指しています。教育内容は、3学年まではほぼ高等学校と同じ内容ですが、専門科目の基礎となる数学に多くの時間を充てています。4、5学年では大学の教養課程レベルの内容を扱い、この間に修得した単位は、専攻科進学後や大学3学年編入学後も修得単位として認められています。

1. 社会や文化に広く関心を持ち、より広い視野に立って物事を捉えることができる人間を育成する。
2. 自然科学（数学・物理・化学）に対する基礎的な知識を持った人間を育成する。
3. 社会性と協調性を持ち、自主的に礼儀正しく行動しようとする人間を育成する。
4. 自分の考えを論理的に伝えることのできる基礎的なコミュニケーション能力を持った人間を育成する。

■一般教育科教員（高松キャンパス）

職名	学位	氏名	主担当科目 [本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）]
教 授	博士（理学）	谷口 浩朗 TANIGUCHI, Hiroaki	基礎数学Ⅲ、微分積分Ⅱ、数学解析
	文学修士	坂本 具償 SAKAMOTO, Tomotsugu	国語Ⅱ、文学特論Ⅰ／文学作品講読
	理学修士	高橋 宏明 TAKAHASHI, Hiroaki	微分積分Ⅰ、数学解析
	博士（工学）	岡野 寛 OKANO, Hiroshi	化学Ⅰ／分析化学、輪講、技術者倫理
	教育学修士	田口 淳 TAGUCHI, Jun	公民Ⅰ、公民Ⅱ、語学特講Ⅰ・Ⅱ（ドイツ語）
	修士（体育学）	中瀬 已紀生 NAKASE, Mikio	保健・体育Ⅰ、保健・体育Ⅱ、保健・体育Ⅲ、保健・体育Ⅴ
	博士（理学）	澤田 功 SAWADA, Isao	物理Ⅱ、物理学基礎Ⅰ／応用物理学
	博士（文学）	長原 しのぶ NAGAHARA, Shinobu	国語Ⅰ
	修士（体育学）	吉澤 恒星 YOSHIZAWA, Kousei	保健・体育Ⅰ、保健・体育Ⅱ、保健・体育Ⅲ、保健・体育Ⅴ
	修士（教育学）	古庄 清宏 KOSHOU, Kiyohiro	英語ⅢA／実践英語、工業英語
准教授	修士（文化史学）	與田 純 YODA, Jun	社会Ⅰ、歴史Ⅱ、人文科学Ⅰ
	MA in TESOL (英語教授法修士)、 修士(国際コミュニケーション)	市川 研 ICHIKAWA, Ken	
	修士（言語教育学）	鳥羽 素子 TOBA, Motoko	表現コミュニケーション
	Ph.D	佐藤 文敏 SATO, Fumitoshi	数学ⅠA・B・C・D／数学特論Ⅰ・Ⅱ
講 師	MA in History 修士（歴史学）	徳永 慎太郎 TOKUNAGA, Shintaro	英語ⅡA、英語VA、英語VB
	博士（工学）	立川 直樹 TACHIKAWA, Naoki	化学Ⅱ、環境化学、物理化学基礎／物理化学、分析化学
	博士（理学）	野田 数人 NODA, Kazuto	物理Ⅱ、物理学基礎／現代物理学
	博士（理学）	白石 希典 SHIRAIISHI, Maresuke	微分積分Ⅰ、微分積分Ⅱ

- 理 科** 物理、化学の基礎的な学習、実験を通して現代科学の基本的な考え方、自然観を習得する。
将来必要となる理学、工学についての発展した内容を理解する上で土台となる基礎力を養う。
- 数 学** 演習などを通して、微分と積分を中心とした工学分野への応用を見込んだ数学の基礎学力を確実に身につける。
- 国 語** 現代文・古文・漢文を通して、情操を養い、他人の見方や考え方を知る。
また、日本語を正確に理解し使いこなすことができるようになり、表現力を磨く。
- 社 会** 一人の社会人として生きるために必要な基本的知識と、健全な批判力を養成する。そのために地歴と公民の分野の学習を通じて、世界と日本の社会や文化についての理解を深めるとともに、社会科学や人文科学への関心を育む。
- 英 語** 英語による基本的なコミュニケーションができるようにする。そのため、読む、書く、話す、聞くの4技能の基礎的な力を身につける。
さらに、英語を通じて世界の文化、技術、ものの見方などについて理解を深め、国際社会に対する関心を深める。
- 体 育** 様々なスポーツの実践を通して、社会性・協調性を養っていくとともに、課題解決のための実行力を身につける。

■一般教育科教員（詰問キャンパス）

職 名	学 位	氏 名	主担当科目 [本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）]
教 授	理学修士	南 貴之 MINAMI, Takayuki	数学ⅠD、微分積分学Ⅱ／応用数学特論
	教育学修士	内田 由理子 UCHIDA, Yuriko	社会Ⅰ、表現コミュニケーションⅠ、グローバル・スタディーズ／技術者倫理
		有馬 弘智 ARIMA, Hirotoshi	保健・体育Ⅰ、保健・体育Ⅲ、保健・体育Ⅳ、保健・体育Ⅴ
	文学修士	畠 伸興 HATA, Nobuaki	表現コミュニケーションⅠ、英語ⅡA、英語特論Ⅰ、英語特論Ⅱ
	博士（文学）	富士原 伸弘 FUJIHARA, Nobuhiro	国語Ⅰ、表現コミュニケーションⅠ、国語Ⅲ、文学特論Ⅱ／文学特論
准教授	博士（学術）	橋本 竜太 HASHIMOTO, Ryuta	数学ⅠA、ⅠC、ⅠD
	博士（理学）	上原 成功 UEHARA, Shigenori	数学ⅠB、ⅠD、基礎数学Ⅲ
	MA in Applied Linguistics 修士（文学）	森 和憲 MORI, Kazunori	英語ⅠA、表現コミュニケーションⅠ／コミュニケーション英語Ⅰ
		横山 学 YOKOYAMA, Manabu	保健・体育Ⅱ、保健・体育Ⅲ、保健・体育Ⅳ、保健・体育Ⅴ
	博士（社会学）	山岡 健次郎 YAMAOKA, Kenjiro	表現コミュニケーションⅠ、公民Ⅰ、公民Ⅱ、グローバル・スタディーズ／技術者倫理
講 師	博士（理学）	竹中 和浩 TAKENAKA, Kazuhiro	化学Ⅰ、数学ⅠD、化学Ⅱ／物理科学特論
	修士（英語教授法）	盛岡 貴昭 MORIOK, Takaaki	英語ⅠB、英語ⅢA／コミュニケーション英語Ⅱ
助 教	博士（国文学）	森 あかね MORI, Akane	表現コミュニケーションⅠ、国語Ⅱ、国語Ⅲ、文学特論Ⅱ／文学特論
	博士（数理科学）	増本 周平 MASUMOTO, Shuhei	数学ⅠD、微分積分学Ⅰ
	博士（工学）	白幡 泰浩 SHIRAHATA, Yasuhiro	数学ⅠD、物理Ⅰ、物理Ⅱ、自然特論／物理科学特論

■教育課程

必修科目（両キャンパス共通）

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国 語	国語Ⅰ	2	2				
	国語Ⅱ	2		2			
	国語Ⅲ				2		留学生対象外 留学生対象
日本語		2			2		
社会	社会Ⅰ	2	2				
	社会Ⅱ	2		2			
数 学	数学ⅠA	2	2				
	数学ⅠB	2	2				
	数学ⅠC	2	2				
	数学ⅠD	2	2				
	数学ⅡA	2		2			
	数学ⅡB	2		2			
	数学ⅡC	2		2			
	数学ⅡD	2		2			
	数学ⅢA	2			2		
	数学ⅢB	2			2		
理 科	物理学Ⅰ	2		2			
	物理学Ⅱ	2			2		
	化学Ⅰ	2	2				
	化学Ⅱ	2		2			
保健・体育	保健・体育Ⅰ	2	2				
	保健・体育Ⅱ	2		2			
	保健・体育Ⅲ	2			2		
外国語	英語ⅠA	2	2				
	英語ⅠB	2	2				
	英語ⅡA	2		2			
	英語ⅡB	2		2			
	英語ⅢA	2			2		
	英語ⅢB	2			2		
	表現コミュニケーションⅠ	2	2				
	表現コミュニケーションⅡ	2		2			
芸術		2	2				
小 計		62	24	24	14	0	0



マルチメディアラーニング・ラボでの英文法の学習



視聴覚教室での講義



マルチメディア教室での授業

■主な取り組み

- コミュニケーション能力向上のため、プレゼンテーション・ソフト等により発表させています。また、日本語検定等の資格試験受験を勧め、チャレンジする機会を与えています。（国語）
- 豊かな人間・情操を育てるような対話型学習を取り入れています。また、学生の関心をひく教材を提示しています。（社会）
- きめ細かい指導を行い、問題演習を行うことで基礎学力の定着を図っています。また、専門学科との連携を図りつつカリキュラムの見直しをしています。（数学）
- 基礎力向上のため不斷の取り組みをしています。学習到達度試験等に関連して、自主学習の促進とモチベーション向上を図っています。（理科）
- スポーツテスト、各実技テストを行うことで、運動能力の維持・向上を図っています。団体行動、ルール遵守を身につけさせ、コミュニケーション能力と問題解決能力を養います。（体育）
- TOEIC、英語検定等の資格試験にチャレンジさせています。また、実践的英語運用能力を身につけさせるため英会話セッション等を実施しています。（英語）

選択科目（高松キャンパス）

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
文学特論Ⅰ	2				2		※
人文科学Ⅰ	2			2			※
人文科学Ⅱ	2			2			※
人文科学Ⅲ	2			2			※
社会科学Ⅰ	2			2			※
社会科学Ⅱ	2			2			※
社会科学Ⅲ	2			2			※
化学概論Ⅰ	2			2			※
化学概論Ⅱ	2			2			※
体育Ⅰ	1			1			
体育Ⅱ	1				1		
英語ⅣA	2			2			※
英語ⅣB	2			2			※
英語ⅤA	2				2		※
英語ⅤB	2				2		※
語学特講Ⅰ	2			2			※
語学特講Ⅱ	2			2			※
語学特講Ⅲ	2			2			※
語学特講Ⅳ	2			2			※
海外英語演習	1			1			
計	37		(1)	5(27)	5(27)		

選択科目（詫間キャンパス）

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
人文科学Ⅰ	2				2		※
人文科学Ⅱ	2					2	※
人文科学Ⅲ	2					2	※
人文科学Ⅳ	2					2	※
社会科学Ⅰ	2					2	※
社会科学Ⅱ	2				2		※
社会科学Ⅲ	2					2	※
社会科学Ⅳ	2					2	※
自然特論	2					2	※
体育Ⅰ	2					2	
体育Ⅱ	2					2	
英語特論Ⅰ	2				2		※
英語特論Ⅱ	2					2	※
中国語Ⅰ	2					2	※
中国語Ⅱ	2					2	※
海外英語演習	1					1	
教育支援活動	1				1		
計	32	(1)	(1)	(2)	14(2)	16(2)	

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で習得できる単位（外数）

■主な実験等設備

	室名	主な設備
高松キャンパス	物理実験室	分光器、誘導コイル
	化学実験室	スパッタ装置、PHメータ、スクラバー付きドラフトチャンバー
	語学演習室	46 ブース、ラップトップコンピュータ 46 台、e-learning
詫間キャンパス	物理実験室	視聴覚機器、比電荷測定装置
	化学実験室	超純水製造装置、スクラバー付きドラフトチャンバー、器具乾燥機
	マルチメディアラーニング・ラボ	45 ブース、コンピュータ 45 台、e-learning



外国人による英語授業



一般教育科棟（高松キャンパス）



一般教育科棟（詫間キャンパス）

創造基礎工学系〔高松キャンパス〕

機械工学科

Department of Mechanical Engineering

私たちの身近にあるあらゆる工業製品は高度な機械技術の産物であり、機械技術者の果たすべき役割は広く、かつ、重要です。そして、近年の技術革新により、コンピュータとエレクトロニクスが機械技術分野にも深く浸透しています。そこで、機械工学科では、「力学を中心とした機械工学の知識とそれを応用した設計力を柱として、コンピュータ支援工学や電気工学などの周辺技術を身につけた、幅広い産業分野において創造力を発揮できる機械技術者を育成する」ことを目的としています。

■学科の教育目標

1. 数学、物理学などの自然科学や機械工学に関連する基礎知識を身につける。
2. 問題解決に取り組み、自主的、継続的に技術的問題を取り組む力を身につける。
3. 技術者としての社会に対する責任や倫理観について考える力を身につける。
4. 記述、説明、発表、あるいは討論できる論理的な思考力やプレゼンテーション能力を身につける。

■教育内容

1. 機械工学科では、実際に製品ができるまでを学び易くするため、その逆の流れ「製品→加工→設計(知能)→解析」を重視し、低学年では専門科目をスムーズに取り組めるように創造基礎工作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを柱に、基礎機械力学、機械設計製図Ⅰ・Ⅱ、機械要素設計Ⅰ、加工学、プログラミング基礎や材料力学Ⅰなどを配置しています。
2. 4年次では、3年次までの学習内容をさらに発展させた材料力学Ⅱや機械要素設計Ⅱを始めとして、熱力学や水力学などの機械工学を形成する4大力学を学びます。また、総合的な設計力を高めるため、4単位のCADⅡを設定しています。
3. 5年次では、準学士課程の最終学年として、振動工学や制御工学の必修科目の他、伝熱工学、流体力学Ⅰ・Ⅱ、システム工学Ⅰ・Ⅱや計算力学など機械技術者にとり非常に有用な選択科目を履修できるようにカリキュラムを設定しています。また、卒業研究では、実験や解析技術などを駆使したテーマを設定し、基礎知識の修得と応用力の探求に努めています。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目 [本科(準学士課程)/専攻科(学士課程)]
教 授	工学修士	山崎 容次郎 YAMASAKI, Yojiro	コンピュータ工学、制御工学、機械工学実験Ⅰ・Ⅱ
	博士(工学)	岩田 弘 IWATA, Hiromu	機械工学演習Ⅰ、工業物理Ⅰ、振動工学、機械工学実験Ⅰ・Ⅱ／工学実験・実習Ⅰ、数値解析特論
	博士(工学)	木原 茂文 KIHARA, Shigefumi	材料力学Ⅲ、弾性力学、機械工学実験Ⅰ／計算力学特論、弾塑性力学、工学実験・実習Ⅱ
	博士(工学)	橋本 良夫 HASHIMOTO, Yoshiro	基礎機械力学、工業物理Ⅱ、機械数学、計算力学／振動工学特論、工学実験・実習Ⅱ
	博士(工学)	小島 隆史 KOJIMA, Takafumi	機械工学演習Ⅰ、熱力学、伝熱工学、熱機関、機械工学実験Ⅱ／内燃機関工学、工学実験・実習Ⅱ
	博士(工学)	上代 良文 JODAI, Yoshifumi	機械設計製図Ⅱ、CADⅡ、水力学、流体力学Ⅰ・Ⅱ、機械工学実験Ⅰ
准教授	博士(工学)	吉永 優一 YOSHINAGA, Shinichi	プログラミング基礎、電気工学、電子工学、システム工学Ⅰ・Ⅱ、機械工学実験Ⅱ
	博士(工学)	徳田 太郎 TOKUDA, Taro	機械要素設計Ⅰ、CADⅠ・Ⅱ、材料工学Ⅰ、技術科学英語Ⅰ・Ⅱ
	博士(工学)	高橋 洋一 TAKAHASHI, Yoichi	加工学、創造基礎工作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／工学実験・実習Ⅰ
助 教	博士(工学)	木村 祐人 KIMURA, Yuto	数値計算法Ⅰ・Ⅱ、機械工学実験Ⅰ、材料工学Ⅰ、メカトロニクス機構学
	博士(工学)	前田 祐作 MAEDA, Yusaku	機械機設計製図Ⅰ、材料力学Ⅰ・Ⅱ、機械工学実験Ⅰ／工学実験・実習Ⅱ

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2	2				○
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2		2			
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	機械工学演習Ⅰ	1	1				○
	機械工学演習Ⅱ	1		1			○
	工業力学Ⅰ	2		2			
	材料力学Ⅰ	2		2			
	材料力学Ⅱ	2		2			
	熱力学	2		2			
	水力学	2		2			
	振動工学	2			2		
	加工工学	2		2			
	機械要素設計Ⅰ	1		1			
	機械要素設計Ⅱ	2		2			
	材料力学	2		2			
	電気工学	1		1			
	制御工学Ⅰ	1				1	
	プログラミング基礎	2		2			○
	数値計算法	2		2			
	機械設計製図Ⅰ	2	2				○
	機械設計製図Ⅱ	2		2			○
	CADⅠ	3		3			
選択科目	創造基礎工作実習Ⅰ	3	3				○
	創造基礎工作実習Ⅱ	3		3			○
	創造基礎工作実習Ⅲ	2		2			○
	機械工学実験Ⅰ	3			3		○
	機械工学実験Ⅱ	3				3	
	卒業研究	8				8	
	小計	64	8	8	18	14	16
	応用数学Ⅲ	2			2		*
	工業力学Ⅱ	2			2		*
	材料力学Ⅲ	2			2		*
	弾性力学	2			2		*
	伝熱工学	2			2		*
	流体力学Ⅰ	2			2		*
	電子工学	2			2		*
	コンピュータ工学	2			2		*
	構造工学	2			2		*
	計算力学	2			2		*
	CADⅡ	4			4		
	技術英語	2			2		*
	熱機関	2			2		*
	制御工学Ⅱ	2			2		*
	流体力学Ⅱ	2			2		*
	校外実習	1			1		
	特別講義Ⅰ	1			1		
	特別講義Ⅱ	1			1		
	特別講義Ⅲ	1			1		
	特別講義Ⅳ	1			1		
	フレ研究Ⅰ	1	1				
	フレ研究Ⅱ	1		1			
	フレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4		4			
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4				4	
	小計	52	1	1	5	4(23)	18(23)
	開設単位合計	116	9	9	23	18(23)	34(23)

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で修得できる単位（外数）

■主な実験設備

室名	主な設備
工作実験室	超精密加工機、ワイヤ放電加工機、ホブ盤、精密旋盤、切削動力計
工作測定室	非接触式三次元測定機、表面粗さ測定機、微小硬度計、万能投影機
材料力学実験室	300kN 万能材料試験機、ねじり試験機、衝撃試験機、回転曲げ疲労試験機
材料実験室	金属顕微鏡、熱処理炉、ビデオマイクロスコープ、各種硬度計、強加工装置
振動工学実験室	動電形加振機、振動計、FFTアナライザー
流体・風洞実験室	風速 40m/s 低乱風洞装置、熱線流速計、流体力学実験装置
熱工学実験室	熱交換器実験装置
内燃機関実験室	内燃機関性能試験装置、エンジン燃焼解析装置、排ガス分析装置
制御工学実験室	D C サーボモータ実験装置、ベースック FA 学習キット
電子工学実験室	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、ファンクションジェネレータ、直流電源
実習工場	旋盤、CNC 旋盤、マシニングセンタ、フライス盤、研削盤、ボール盤



トマト収穫ロボットによる収穫実験



実習工場



CAD 室での授業風景



ソーラーカーとエコカー

■主な取り組み

機械工学科では、座学や多くの実験実習を学ぶだけでなく、コミュニケーション力を有した実践的な機械技術者の育成を目指し、各種マシンを設計製作し大会に出場することを積極的に推進しています。例として、上に示した写真はソーラーカーレースとエコカーレースの全国大会の模様です。これまで、素晴らしい成績を収めています。

電気情報工学科

Department of Electrical and Computer Engineering

電気情報工学科では、技術の高度化が進展する社会の中でも活躍し続けることのできる電気電子技術者及び情報通信技術者の育成を目指しています。そのため、数学・物理などを中心とした基礎学理や専門の基礎をじっくりと学び、その上に専門応用技術を学習し、技術者となるための基礎を習得します。これらと共に回路設計や卒業研究、組込み技術教育を軸とした各種実験・実習などを行い、技術者にとって必要な実践力や創造性、ならびに、ものづくりを行っていく上で欠かせないチームワークや協調性を身につけていきます。

■学科の教育目標

1. 技術の産物が社会や自然に及ぼす影響を判断できる力と責任感、倫理観を持つ。
2. 数学や物理等の基礎学理と専門基礎工学を十分に習得し、専門応用分野の急速な技術の進展に追従でき、生涯にわたる学習能力を有する。
3. 自主的に課題に取り組む姿勢と能力を身につけ、互いに協力して課題に取り組める。
4. 論理的な記述・表現ができる。

■教育内容

1. 低学年では、電気・電子・情報工学の専門を学ぶための導入科目として、電気基礎数学、電気基礎、電子工学基礎、計測工学基礎、情報処理基礎等の科目をくさび形に配置し、専門分野に対する興味を喚起させるとともに、専門工学を学ぶための基礎を養います。
2. 高学年では、工業数学、電気回路、電磁気学を配置し、電気・電子・情報工学の専門科目を学ぶための基礎を養います。それと共に、エネルギー環境工学、オペレーティングシステム、情報通信ネットワーク、計算機ハードウェア等を学ばせることにより、専門リテラシー、プログラミング能力を養います。
3. また、高学年では、電気・電子系科目と情報・通信系科目から構成される選択科目から希望する科目を学習させ、自らの方向性を見いださせながら、専門応用能力や生涯にわたる学習能力を高めます。
4. 回路設計や卒業研究、組込み技術教育を軸とした実験・実習を通して、実行力やコミュニケーション能力を養います。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目 [本科(準学士課程) / 専攻科(学士課程)]
教授	工学博士	鹿間 共一 SHIKAMA, Tomokazu	電子工学基礎、半導体物理／半導体工学
	博士(工学)	重田 和弘(兼担)* SHIGETA, Kazuhiro	情報処理基礎、マルチメディア工学／情報通信工学
	博士(工学)	辻 正敏 TSUJI, Masatoshi	電子回路、回路設計(電子)／マイクロ波工学、集積回路
	博士(工学)	漆原 史朗 URUSHIIHARA, Shiro	計測工学、電気回路、制御理論／現代制御理論
准教授	博士(工学)	太良尾 浩生 TARAO, Hiroo	電磁気学／環境電磁工学
	博士(工学)	村上 幸一 MURAKAMI, Yukikazu	情報処理基礎、情報数学基礎、オペレーティングシステム
	博士(工学)	柿元 健 KAKIMOTO, Takeshi	電気回路、アルゴリズム、統計データ処理／プロジェクト管理論
講師	博士(工学)	山本 雅史 YAMAMOTO, Masashi	電気物理、電気電子材料／電子物性
助教	博士(情報学)	雫元 洋一 HINAMOTO, Yoichi	デジタル計測制御、信号処理
	博士(工学)	吉岡 崇 YOSHIOKA, Takashi	エネルギー環境工学／エネルギー変換工学
	博士(情報学)	北村 大地 KITAMURA, Daichi	工業数学、論理回路、回路設計(論理)／デジタル信号処理

*専攻科創造工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2	2				○
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2		2			
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	電気情報基礎Ⅰ	4	4				○
	電気情報基礎Ⅱ	4		4			○
	電気基礎	4		4			
	電子工学基礎	4		4			
	電子回路Ⅰ	2			2		
	電気回路Ⅰ	2			2		
	論理回路	2			2		
	情報処理基礎	4		4			
	電子回路Ⅱ	1			1		
	情報数学	1			1		
	創造工学実験実習Ⅰ	2	2				○
	創造工学実験実習Ⅱ	4		4			○
	電気情報工学実験Ⅰ	4		4			○
	電気情報工学実験Ⅱ	4			4		○
選択科目	電気情報工学応用実験	4				4	
	卒業研究	8				8	
	回路設計	2				2	
	小計	64	8	8	18	14	16
	半導体物理	2			2		※
	電磁気学Ⅱ	2			2		※
	電気回路Ⅱ	2			2		※
	計測工学	2			2		※
	電気電子材料	2			2		※
	電子回路Ⅱ	2			2		※
	電子回路Ⅲ	2			2		※
	エネルギー変換工学	2			2		※
	制御工学	2			2		※
	電子デバイス	2			2		※
	通信工学	2			2		※
	情報通信ネットワーク	2			2		※
	アルゴリズム	2			2		※
	計算機アーキテクチャ	2			2		※
	オペレーティングシステム	2			2		※
	信号処理	2			2		※
	情報・符号理論	2			2		※
	知能情報処理	2			2		※
	数値解析	2			2		※
	統計データ処理	2			2		※
	科学技術英語	2			2		※
	校外実習	1			1		
	特別講義Ⅰ	1			1		
	特別講義Ⅱ	1			1		
	特別講義Ⅲ	1			1		
	特別講義Ⅳ	1			1		
	フレ研究Ⅰ	1	1				
	フレ研究Ⅱ	1		1			
	フレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4				4	
	小計	62	1	1	5	4(45)	6(45)
	開設単位合計	126	9	9	23	18(45)	22(45)

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で修得できる単位（外数）

■主な実験設備

室名	主な設備
制御システム実験室	3軸産業用ロボット、二慣性共振系実験装置、3.7kW級誘導電動機、ACモータ駆動用インバータ
電磁環境実験室	平等磁界暴露装置、磁界測定器、ワークステーション
パワエレ実験室	AC サーボ駆動ボールねじシステム、インバータ駆動誘導モータ制御システム
ソフトウェア工学実験室	マルチコアCPU計算機、統計解析ソフトウェア
無響室	計測用スピーカー、マイク
音響実験室	音響測定装置、超音波検出器、数値計算ソフトウェア
共同研究スペース(音・メディア情報処理研究室)	マルチコアCPU計算機、GPU計算機、信号処理ソフトウェア
電気情報工学コース実験室(材料研究室)	大気圧プラズマ製膜装置、PLI測定装置、波長可変UV/パルスレーザー分光システム、放電プラズマ生成装置、QMS、TMP式高真空装置、HW-CVD装置
ゼミ・談話室(知能情報研究室)	アイマークレコーダー、生体情報収集装置、画像解析サーバー
電子工学実験室	オシロスコープ、発振器、直流電源、デジタル周波数計、パリス回路実習装置
計測・制御実験室	SCRインバータ、電気機器実習装置、カーブトレーサー、ロジックアナライザ、プリント基板加工機
情報通信工学実験室	論理回路実習装置、半導体素子実習装置、演算回路実習装置、AD/DA 変換実習装置



回路設計（電子回路）

■主な取り組み

電気情報工学科では「組込み技術」を軸とした実験・実習を行っています。特に組込み技術によるシステム開発では、ソフトウェアの知識だけではなく、ハードウェアの知識も必要とされることから、本科では回路設計科目などにより、ハードウェア技術の教育にも力を入れています。また最終的には、総合的な組込み制作実習課題を実施することにより、技術者として必要な実践力や創造性を育成する教育を行っています。

これら学生教育に加え、組込み技術セミナーや専門講習会など各種セミナーを開催し、地域技術者教育にも貢献しています。

機械電子工学科

Department of Electro-Mechanical Systems Engineering

機械工学、電気電子工学及びコンピュータ制御技術の融合した技術分野をメカトロニクスと呼びます。メカトロニクス技術を利用し、高機能な機械システムの設計・開発・生産・製造、運用・保守、検査・修理など(以上を総称して「モノづくり」という)に携わる実践的技術者の育成を目的にしています。

社会の要求に合わせた機械システムに係わるモノづくりのために、複数の技術分野にわたる基礎知識を活かし、課題を発見し解決する能力や、チーム作業における協調性やコミュニケーション能力を身につけ、全体を見渡してとりまとめを行う技術者の育成を目指します。

■学科の教育目標

1. 社会や文化に関する教養を身につけ、機械システムが社会や自然に及ぼす影響を考える能力を身につける。
2. メカトロニクス技術を利用し、高機能な機械システムの開発・生産に携わる能力を身につける。
3. メカトロニクス分野の知識を基に、与えられた課題に対し、創造性を發揮して問題解決する能力を身につける。
4. 論理的な説明能力と簡単な英語でのコミュニケーション能力を持ち、社会性・協調性を發揮し行動する能力を身につける。

■教育内容

1. 低学年（1年生～3年生）では、機械工学と電気電子工学、情報技術に関する授業科目をバランス良く配置し、機械電子工学科の専門基礎について学ばせます。
2. 低学年の実験実習では、機械系テーマと電気電子系テーマをそれぞれの分野の講義と連携して実施し、教室で学んだ知識を定着させます。
3. 高学年（4年生、5年生）では、機械工学、電気電子工学、制御・情報技術、メカトロニクスに関する発展科目を開講し、各分野の知識習得やコミュニケーション能力、課題解決能力向上を図ります。
4. 5年生では、卒業研究を通じて実践的な課題解決能力を高めます。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目 [本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）]
教授	博士（工学）	十河 宏行 SOGO, Hiroyuki	メカトロニクス基礎Ⅲ、ロボット工学、機械設計工学／動力学特論
	博士（工学）	徳永 秀和 TOKUNAGA, Hidekazu	情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、情報ネットワーク、統計解析／最適化論
	博士（材料科学）	相馬 岳 SOUIMA, Takeshi	機械材料学Ⅰ・Ⅱ、加工学基礎、創造機械電子基礎実験実習Ⅱ／エネルギー工学特論
准教授	博士（工学）	由良 読 YURA, Satoshi	電気回路、システム制御工学、機械電子工学実験Ⅰ・Ⅱ／制御工学特論Ⅱ
	博士（工学）	嶋崎 真一 SHIMASAKI, Shin-ichi	機械電子数学、流体工学Ⅰ・Ⅱ、熱工学Ⅰ・Ⅱ、機械計測／伝熱工学特論
	博士（工学）	正箱 信一郎 SHOBAKO, Shinichiro	メカトロニクス基礎Ⅱ、材料力学基礎Ⅰ・Ⅱ、機械電子工学実験Ⅰ／先端接合工学
講師	博士（医学）	石井 耕平 ISHII, Kohei	メカトロニクス基礎Ⅰ、創造機械電子基礎実験実習Ⅰ・Ⅲ、工業力学、機械力学
	博士（工学）	津守 伸宏 TSUMORI, Nobuhiko	メカトロニクス基礎Ⅰ、創造機械電子基礎実験実習Ⅰ、電子回路／工学実験・実習Ⅰ
助教	博士（工学）	山下 智彦 YAMASHITA, Tomohiko	メカトロニクス基礎Ⅱ、創造機械電子基礎実験実習Ⅱ・Ⅲ、基礎物理学Ⅰ

*専攻科創造工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2	2				○
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2				2	
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	電磁気学Ⅰ	2		2			
	加工工学基礎	2	2				○
	工業力学	2		2			
	材料力学基礎Ⅰ	2		2			
	機械設計工学	2			2		
	機械材料学Ⅰ	2			2		
	熱工学Ⅰ	1			1		
	流体工学Ⅰ	1			1		
	電気電子回路Ⅰ	2		2			
	情報処理基礎	2		2			
	メカトロニクス基礎Ⅰ	3	3				○図学を含む
	メカトロニクス基礎Ⅱ	3		3			○
	メカトロニクス基礎Ⅲ	3		3			
	メカトロニクスシステム設計	2			2		
選択科目	システム制御工学Ⅰ	2			2		
	技術科学表現演習	1		1			
	創造機械電子基礎実験Ⅰ	3	3				○
	創造機械電子基礎実験Ⅱ	3		3			○
	創造機械電子基礎実験Ⅲ	2		2			○
	機械電子工学実験Ⅰ	4			4		○
	機械電子工学実験Ⅱ	4			4		○
	卒業研究	8			8		
	小計	64	8	8	18	14	16
	材料力学基礎Ⅱ	2				2	※
	機械材料学Ⅱ	2				2	※
	熱工学Ⅱ	2				2	※
	流体工学Ⅱ	2				2	※
	電気電子回路Ⅱ	2			2		※
	情報処理A	2			2		※
	情報処理B	2			2		※
	システム制御工学Ⅱ	2			2		※
	機械力学	2			2		※
	ロボット工学	2			2		※
	機械計測	2			2		※
	統計解析	2			2		※
	科学技術英語	2			2		※
	電磁気学Ⅱ	2			2		※
	半導体工学基礎	2			2		※
	電子計測	2			2		※
	エレクトロニクス工学	2			2		※
	校外実習	1			1		
	特別講義Ⅰ	1			1		
	特別講義Ⅱ	1			1		
	特別講義Ⅲ	1			1		
	特別講義Ⅳ	1			1		
	フレ研究Ⅰ	1	1				
	フレ研究Ⅱ	1		1			
	フレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4			4		
	小計	54	1	1	5	4(27)	16(27)
	開設単位合計	118	9	9	23	18(27)	32(27)

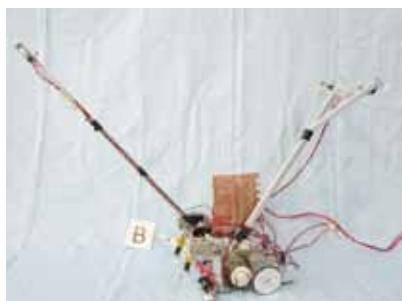
備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で修得できる単位（外数）



メカトロニクスシステム設計



自律型ロボット製作例



機械部品の加工・製作



電子部品の試験・調査

■主な実験設備

室名	主な設備
材料実験室	金属顕微鏡、熱処理炉、ビデオマイクロスコープ、各種硬度計、強加工装置
材料力学実験室（恒温恒湿室）	300kN万能試験機、ねじり試験機、衝撃試験機、回転曲げ疲労試験機
熱工学実験室	高周波誘導炉、エクトロメーターレーザー変位計、高速度ビデオカメラ、熱交換器実験装置
電子工学実験室／電子制御実験室	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、ファンクションジェネレーター、電子電圧計、ユニバーサルカウンタ、直流電源、PCB-CAD/CAM
CAD室	プロジェクト、パーソナルコンピュータ、3次元CAD
演習室	プロジェクト、パーソナルコンピュータ、3次元CAD、3Dプリンタ
制御工学実験室	温度制御実験装置、水位制御実験装置
FA実習室	3Dモデリングマシン、立てフライス盤、ボール盤、帯鋸盤
工作測定室	空気マイクロメータ、オトコリメータ、指針計微器、工具顕微鏡
実習工場	旋盤、ボール盤、フライス盤、鋸盤、マシニングセンタ、各種溶接機

■主な取り組み

低学年（1年生～3年生）の専門科目では、40名クラスを2つに分けた少人数授業（メカトロニクス基礎、実験実習）を取り入れ、論理的な表現力を培う日本語修辞法の授業（技術科学表現演習）を開講します。高学年（4年生・5年生）では、低学年で学んだ知識を実践し課題解決能力を養う実践科目（メカトロニクスシステム設計／機械電子工学実験Ⅰ、卒業研究）を開講し、「モノづくり」をキーワードに広く関連分野を学習します。

建設環境工学科

Department of Civil Engineering

建設環境工学科では、土木工学を中心に、安全で安心な公共の建設構造物の設計・施工・計画の基礎的な技術を身につけ、社会的にも大きな課題となっている環境保全技術、防災・減災技術、維持・管理・修繕技術、リサイクル技術、コンピュータ利用技術などの応用分野にも対応できる建設技術者の育成を目指しています。そのために、専門を学ぶための基礎的な学力を土台に専門基礎技術や専門応用技術を学習し、建設環境技術者となるための基礎学力の習得を重視しています。また、専門技術の習得を確実にするために、実験・実習、設計製図や創成工学などのデザイン系科目などを学習することにより、建設環境技術者として必要な実践力や創造力を涵養するとともに、発表会や報告会などを通してコミュニケーション能力を身につけていきます。

■学科の教育目標

1. 広い視野を持ち、環境問題やエネルギー問題などを認識し、技術者としての倫理観を高める。
2. 数学、物理などの自然科学に関する基礎知識を持ち、それを土台として専門基礎技術を習得する。
3. 各種実験・実習、設計製図やデザイン系科目などの学習により、実践力や創造力を涵養する。
4. 多くの様々な報告書作成やその発表を通してコミュニケーション能力を高める。

■教育内容

1. 第1、2学年では、一般教養科目を中心に学習すると同時に、専門は土木工学基礎、測量、基礎力学I、基礎情報処理などの科目を配置して専門基礎技術を学ぶための導入としています。
2. 第3学年では、一般教養科目と専門基礎科目をほぼ同等に配置し、特に専門は構造力学I、基礎力学II、建設材料学などを柱とする構造物の設計や施工にかかわる重要な専門基礎技術に関する知識を学びます。
3. 第4、5学年では、ほとんどが専門科目であり、鋼構造物・コンクリート構造物の設計、環境工学、計画学などの専門応用技術の一部が配置され、実験・実習、設計製図や創成工学などのデザイン系科目、卒業研究などにより、実践力、創造力、総合力を高めます。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目 [本科(準学士課程) / 専攻科(学士課程)]
教 授	博士(工学)	向谷 光彦(兼担)* MUKAITANI, Mitsuhiro	工学リテラシー、実験実習I、基礎力学II、防災工学基礎、地域防災学/環境防災工学II、情報システム、建設工学演習、輪講I・II
	博士(工学)	荒牧 憲隆 ARAMAKI, Noritaka	工学リテラシー、土木工学基礎、基礎力学I、土の力学、構造力学II、実験実習II、地盤工学/環境防災工学I、建設工学演習、輪講I・II
	博士(工学)	宮崎 耕輔 MIYAZAKI, Kosuke	測量学II、地域整備学、建設創造基礎実験実習II/建設数理計画学、実験実習II、建設工学演習、輪講I・II
	博士(工学)	多川 正 TAGAWA, Tadashi	工学リテラシー、建設環境実験実習I、土木工学基礎、環境原論、環境工学I・II、環境アセスメント、実験実習III、環境工学特論、地域環境学/環境倫理・マネジメント、建設工学演習、輪講I・II
	博士(工学)	柳川 竜一 YANAGAWA, Ryōichi	工学リテラシー、建設環境実験実習I、応用情報処理、水理学、海岸工学、情報処理工学、応用数学II、実験実習III/流体力学特論、建設工学演習、輪講I・II
准教授	博士(工学)	林 和彦 HAYASHI, Kazuhiko	工学リテラシー、建設環境実験実習I、建設構造設計学、設計製図I・II、実験実習II、工学演習III/耐震設計学、構造解析学、建設工学演習、輪講I・II
	博士(工学)	今岡 芳子 IMAOKA, Yoshiko	建設環境実験実習I、土木工学基礎、建設創造基礎実験実習II、計画学基礎/社会基盤計画学、都市デザイン、建設工学演習、輪講I・II
	博士(農学)	高橋 直己 TAKAHASHI, Naoki	建設環境実験実習I、土木工学基礎、基礎情報処理、基礎力学II、河川水文学、工学演習II、応用データ処理学、実験実習III、建設工学演習、輪講I・II
助 教	博士(工学)	松本 将之 MATSUMOTO, Masayuki	基礎力学I、構造力学I、実験実習II、創成工学/建設工学演習、輪講I・II
	博士(農学)	長谷川 雄基 HASEGAWA, Yuki	建設材料学、実験実習I、工学演習III、構造工学/維持管理工学、実験実習、建設工学演習、輪講I・II

*専攻科創造工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
工学リテラシー	2	2					○
応用数学Ⅰ	2		2				
応用数学Ⅱ	1			1			
科学技術史概論	1				1		
知的財産概論	1				1		
構造力学Ⅰ	2		2				○
構造力学Ⅱ	2		2				
構造力学Ⅲ	1			1			
建設構造設計学Ⅰ	2			2			
建設材料学	2		2				
土質力学Ⅰ	1			1			
土質力学Ⅱ	1			1			
建設マネジメント	1					1	
水理学Ⅰ	1			1			
水理学Ⅱ	1			1			
必修科目							
河川・海岸工学Ⅰ	1			1			
環境工学Ⅰ	2		2				
環境工学Ⅱ	1			1			
建設情報処理Ⅰ	2		2				○
建設情報処理Ⅱ	2		2				
測量学Ⅰ	2		2				○
計画学Ⅰ	1			1			
建設設計図Ⅰ	1			1			
建設設計図Ⅱ	1				1		
建設環境実験実習Ⅰ	4	4					○
建設環境実験実習Ⅱ	2		2				○
建設環境実験実習Ⅲ	4		4				○
建設環境実験実習Ⅳ	4			4			○
建設環境実験実習Ⅴ	3				3		
土木工学基礎	2	2					○
土木工学概論	1			1			○
創成工学	1			1			○
卒業研究	8				8		
小計	64	8	8	18	14	16	
選択科目							
建設構造設計学Ⅱ	2				2		*
土質力学Ⅲ	2				2		*
河川・海岸工学Ⅱ	2				2		*
応用力学	2				2		*
環境工学Ⅲ	2				2		*
環境アセスメント	2				2		*
建設情報処理Ⅲ	2				2		*
測量学Ⅱ	2				2		*
防災工学	2				2		*
応用数学Ⅲ	2				2		*
科学技術英語	2				2		*
校外実習	1				1		
特別講義Ⅰ	1				1		
特別講義Ⅱ	1				1		
特別講義Ⅲ	1				1		
特別講義Ⅳ	1				1		
フレ研究Ⅰ	1	1					
フレ研究Ⅱ	1		1				
フレ研究Ⅲ	1			1			
ソフトウェア特別実習Ⅰ	4			4			
ソフトウェア特別実習Ⅱ	4				4		
ソフトウェア特別実習Ⅲ	4				4		
小計	42	1	1	5	4(25)	6(25)	
開設単位合計	106	9	9	23	18(25)	22(25)	

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で修得できる単位（外数）

■主な実験設備

室名	主な設備
構造工学実験室	構造物可変載荷装置、はり試験装置、静歪み計、動歪み計、多チャンネルデータ記録計、サーボ式二軸振動台、二次元実験土槽、三次元振動台
材料工学実験室	300KN 全自動圧縮試験機、強制式二軸コンクリートミキサー、凍結融解試験機、コンクリート関連試験装置、コングリート養生槽、データロガー、デジタル変位計
流体工学実験室	多目的三次元水路、可変開水路、造波水槽、刃型せき、管水路、波高計、各種測定器
地盤工学実験室	自動圧密試験機、50KN 万能圧縮試験機、繰返し三輪圧縮試験機、汎用大型一面剪断試験機、加圧型変水位透水試験機、B型粘度計、高速度カメラ、各種土質試験機器
環境工学実験室	全有機炭素計、イオンクロマトグラフ、ガスクロマトグラフ、CHN コーダー、オートクレーブ、遠心分離器、超純水製造装置、酸性雨採集装置、電子天秤、恒温炉
器材室	GNSS 測量システム、地理情報システム、リモートセンシング、トータルステーション、デジタル式トランシット、オートレベル、光波測距儀、平板、プラニメーター、実体視鏡



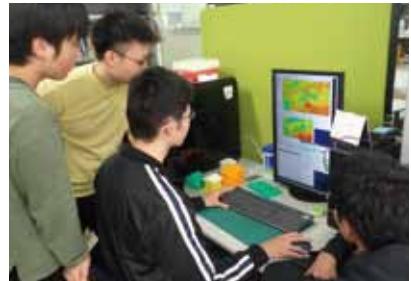
はりのたわみ実験



測量実習



水理実験



数値モデル解析

■主な取り組み

建設環境工学科では、様々な社会のニーズに對応できる技術者を育成するため、専門基礎技術の習得に力を注いでいます。同時に環境・防災・計画・情報処理をテーマとした幅広い知識と技術を習得します。習得事項の達成度を評価する一助として、技術士（一次試験）、測量士・土補、國家公務員一般職、基本情報技術者、環境社会検定などの資格試験に挑戦することを奨励しています。課外活動として、たかまつ土木女子の会、デザイン構造研究会、ACO サークルを行っています。

電子情報通信工学系 [詫間キャンパス]

通信ネットワーク工学科

Department of Communication Network Engineering

すべての産業・社会活動では今や情報通信が必要不可欠となっています。この社会の神経というべき情報通信を支えるのが、地球上に張り巡らされた電線、光ファイバ、電磁波からなるネットワークと無数のコンピュータです。

通信ネットワーク工学科は、この広くて魅力ある情報通信分野に貢献できる優秀なコミュニケーション技術者、コンピュータネットワーク技術者の養成を目的としています。第一級陸上特殊無線技士、第一級陸上無線技術士などの国家資格の取得に向けたカリキュラムを編成しています。

■学科の教育目標

1. 情報通信分野の技術に必要なコンピュータ、ネットワーク、エレクトロニクスの知識を身につけ技術者倫理を有する。
2. 無線・有線通信に関する資格を取得するとともに、技術の変化に対応できる。
3. 既成概念にとらわれず、工学技術の創意工夫と向上に努力し、共同作業ができる。
4. 情報機器を用い、情報収集、文書作成および発表ができる。

■教育内容

1. 低学年では電気電子分野基礎科目である電気回路、電気磁気学、電子回路、電子工学、電気電子計測に加え情報分野基礎科目である情報処理を学び、高学年では通信分野科目、ネットワーク分野科目を学びます。
2. 創造性を育む教育を重視し、第1学年から第5学年まで通して実験・実習を配置し、特に第4・5学年の通信工学実験では回路を設計・製作・評価する実験を行います。
3. 第4学年では卒業研究へと繋がる通信工学セミナー、第5学年では卒業研究を行い、創造性豊かな実践的コミュニケーションシステム技術者、コンピュータネットワーク技術者を輩出できる教育を行います。
4. 卒業時に第一級陸上特殊無線技士の資格取得ができるように科目を配置しています。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目 [本科(準学士課程)/専攻科(学士課程)]
教授	博士(工学)	福永 哲也 FUKUNAGA, Tetsuya	電子回路Ⅱ、回路理論、情報理論／デジタル信号処理工学
	博士(工学)	塩沢 隆広 SHIOZAWA, Takahiro	デジタル回路Ⅰ、基礎工学実験／光通信工学、工業英語
	理学博士	澤田 土朗 SAWADA, Shiro	応用物理Ⅰ・Ⅱ、応用数学、確率統計／量子力学
	博士(工学)	井上 忠照(兼担)* INOUE, Tadaaki	電気回路Ⅱ、電気通信システムA・B、通信工学実験Ⅱ／通信工学
	博士(工学)	一色 弘三 ISHIKI, Hiromi	電気回路Ⅰ、電気電子計測Ⅰ、通信工学セミナー、通信工学実験Ⅰ
准教授	工学修士	真鍋 克也 MANABE, Katsuya	基礎工学実験・実習、電波伝送学Ⅰ、無線工学演習、電波伝送学Ⅱ
	情報工学修士	高城 秀之 TAKAO, Hideyuki	情報処理Ⅰ、コンピュータネットワークⅡ、ネットワークプログラミング／情報ネットワーク論
	博士(工学)	正本 利行 SHOHON, Toshiyuki	基礎電気工学、基礎工学実験、電気磁気学Ⅰ、電子回路Ⅰ
	博士(工学)	小野 安季良 ONO, Akira	無線通信工学Ⅰ・Ⅱ、無線工学演習／システム制御工学
	博士(理学)	桑川 一也 KUMEKAWA, Kazuya	情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、データ通信
講師	博士(工学)	白石 啓一 SHIRAISHI, Keiichi	基礎工学実験・実習、基礎工学実験、コンピュータネットワークⅠ、情報セキュリティ
	博士(工学)	草間 裕介 KUSAMA, Yusuke	電気磁気学Ⅱ、通信工学実験Ⅱ／応用電磁気学、電磁波・光波工学
講師	博士(工学)	川久保 貴史 KAWAKUBO, Takashi	創造実験・実習、電子工学、通信法Ⅰ、電気電子計測Ⅱ

*専攻科電子情報通信工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2				2	
	確率統計	2			2		
	応用物理 I	2				2	
	基礎電気工学	2	2				
	情報処理 I	2		2			
	情報処理 II	2			2		
	デジタル回路 I	2		2			
	電気回路 I	2		2			
	電気回路 II	2			2		留学生対象外
	電気回路 A	2			2		留学生対象
	電気磁気学 I	2			2		
	電気磁気学 II	2				2	
	電子回路 I	2			2		
	電子回路 II	2				2	
	電気電子計測 I	2			2		
	電子工学	2			2		
	無線通信工学 I	2				2	
	通信工学セミナー	4				4	○
選択科目	基礎工学演習	2	2				○
	工学演習	2			2		
	創造実験・実習	4	4				○
	基礎工学実験・実習	2		2			○
	基礎工学実験	2			2		○
	通信工学実験 I	4				4	○
	通信工学実験 II	4				4	
	卒業研究	8				8	
	小 計	64	8	8	18	18	12
	応用物理 II	2				2	※
	情報処理 III	2				2	※
	電気電子計測 II	2				2	
	無線通信工学 II	2				2	※
	電波伝送学 I	2			2		
	電波伝送学 II	2				2	※
	電気通信システムA	2			2		※
	電気通信システムB	2				2	※
	通信法 I	2			2		※
	通信法 II	2			2		※
	コンピュータネットワーク I	2			2		※
	コンピュータネットワーク II	2				2	※
	情報理論	2				2	※

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の()数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

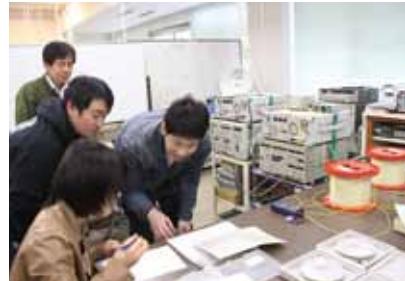
室 名	主 な 設 備
電波暗室	EMIレシーバ、CVCF電源、広帯域アンテナ、擬似電源回路網、吸収クランプ、ターンテーブル、ベクトルネットワークアナライザ
電波応用実験室	レーダー、サテライトコンパス、AIS受信機、無線方位測定機、無線送信機、通信型受信機
フォトニクス実験室	サンプリングオシロスコープ、EOコンバータ、OEコンバータ、光パリス試験機
第3基礎通信工学実験室 情報ネットワーク演習室	パルスバターン発生器、符号誤り率検出器、光スペクトルアナライザ、LAN構築演習設備一式(ルータ、ハブ、無線LAN、PC)、マイコン演習器材



ワイヤレス通信実験



レーダ探索



光ファイバ通信



コンピュータネットワーク

■主な取り組み

通信ネットワーク工学科では、コンピュータネットワークの分野で必要とされるエンジニアになるために、コンピュータとコンピュータあるいはコンピュータと端末の間の通信について基礎から応用までの技術を修得できます。インターネット検定、ドットコムマスター(ダブルスター)あるいはCisco技術者認定CCNAに合格できるスキルを目指します。

また、無線・有線通信に関する基礎から応用までの技術を修得できます。無線従事者国家資格に関係して「第一級陸上特殊無線技士」「第二級海上特殊無線技士」を取得でき、「第二級陸上無線技術士」国家試験の科目免除を受けられます。また、「工事担任者」国家試験の科目免除を受けられます。

電子システム工学科

Department of Electronic Systems Engineering

IT、エレクトロニクス、メカトロニクス技術の発展に伴い、エレクトロニクスの基礎から情報通信、コンピュータ、半導体デバイス、ロボット工学までの幅広い技術やそれらが融合した技術を持ったロボットエンジニア、デバイスエンジニアが嘱望されています。

電子システム工学科では、電子工学の基礎からロボット技術、半導体デバイス応用まで幅広い分野の授業を自分で選択し勉強します。また授業と「ものづくり」中心の創造実験を効果的に組み合わせ、楽しみながら創造性豊かで個性的なロボット・デバイスエンジニアの育成を目指します。

■学科の教育目標

- 回路、半導体、コンピュータなどの専門科目を基礎として、デバイスやロボットに関する実践的な専門技術を身につける。
- 広い視野を持ち、設計、製作、問題発見、問題解決ができる。
- 計画を立案し、継続して課題に取り組むことができる。
- 物事を論理的に考え、文章や口頭で発表できる。

■教育内容

- 低学年では工学導入教育を積極的に取り入れ「ものづくり」の楽しさから興味を引き出し工学基礎科目へ結びつけるような教育を行います。また基礎専門科目はロボットエンジニア、デバイスエンジニアに必要な弱電基礎科目を基礎工学実験と連携し実験・実習と理論が同時に教育できるようなカリキュラムとしています。
- 高学年ではロボットエンジニアコースとデバイスエンジニアコースの2つのコースを選択できるようにし、どのような分野へ就職・進学したいかを考えながら自分が進みたい分野の専門科目をセミナー、卒業研究と連携し教育します。
- 電子システムセミナー、卒業研究では学生一人一人が自分の研究テーマを持ち、担当教員の指導の下で1年間にわたって研究を行います。新しい知識を得るだけでなく、ロボット・デバイスエンジニアとしての研究に対する姿勢を身につけ、将来エンジニアとしての仕事に対する取り組み方を学ぶことを重視しています。
- 低学年の工学導入教育、基礎専門科目、基礎工学実験から高学年の電子システムセミナー、卒業研究でグローバル教育を積極的に行います。座学では身につきにくいグローバルコミュニケーションを実験・実習、基礎専門科目で取り入れ、将来世界で活躍できるロボットエンジニア、デバイスエンジニアを目指します。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目 [本科(準学士課程)/専攻科(学士課程)]
教 授	博士(工学)	三崎 幸典 MISAKI, Yukinori	創造実験・実習、電子工学、基礎工学実験、電子計測／知的財産権
	工学博士	長岡 史郎 NAGAOKA, Shiro	半導体デバイス工学、電子材料工学、工学実験Ⅰ・Ⅱ／計測工学特論、集積回路工学
		矢木 正和 YAGI, Masakazu	半導体工学、オプトエレクトロニクス、工学実験Ⅰ・Ⅱ
准教授	博士(工学)	三河 通男(兼担) MIKAWA, Michio	基礎電気工学、電子回路Ⅰ、電気通信システムA、データ通信、工学実験Ⅱ
	修士(教育学)	ジョンストン・ロバート・ウェ斯顿 JOHNSTON, Robert Weston	創造実験・実習、基礎工学実験、電子システム特講、情報処理Ⅱ／工業英語
	博士(工学)	月本 功 TSUKIMOTO, Isao	デジタル回路Ⅱ、電子回路Ⅱ、工学実験Ⅰ・Ⅱ／電子回路特論、情報工学概論
講 師	博士(工学)	天造 秀樹 TENZOU, Hideki	電気回路Ⅰ、基礎工学実験、電気磁気学Ⅰ、応用数学
	博士(工学)	森宗 太一郎 MORIMUNE, Taichiro	電気磁気学Ⅱ、基礎工学実験、センサ工学、工学実験Ⅱ／応用電子物性工学
助 教	博士(工学)	清水 共 SHIMIZU, Tomo	電子回路Ⅰ、応用物理Ⅱ、電子物性工学、工学実験Ⅰ・Ⅱ
	博士(工学)	岩本 直也 IWAMOTO, Naoya	創造実験・実習、電気回路Ⅱ、基礎工学実験、情報処理Ⅱ、工学実験Ⅱ
助 教	博士(工学)	吉岡 源太 YOSHIOKA, Genta	デジタル回路Ⅱ、情報処理Ⅰ、基礎工学実験・実習、制御工学Ⅰ、システム工学

■ 教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2			2		
	確率統計	2		2			
	応用物理Ⅰ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	電気回路Ⅰ	2		2			
	電気回路Ⅱ	2		2			
	基礎電気回路	4		4			
	電気磁気学Ⅰ	2		2			
	電気磁気学Ⅱ	2			2		
	電子工学	2		2			
	電子回路Ⅰ	2		2			
	電子回路Ⅱ	2			2		
	半導体工学	2			2		
	半導体デバイス工学	2				2	
	デジタル回路Ⅰ	2		2			
	デジタル回路Ⅱ	2		2			
	電子計測	2				2	
	制御工学Ⅰ	2			2		
	情報処理Ⅰ	2		2			
	情報処理Ⅱ	2		2			
	電子システムセミナー	4			4		◎
	基礎工学演習	2	2				
	創造実験・実習	4	4				◎
	基礎工学実験・実習	2		2			◎
	基礎工学実験	4		4			◎
	工学実験Ⅰ	4			4		◎
	工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	8				8	
選択科目	小計	70	8	8	18	20	16
	小計(留学生)	72	8	8	20	20	16
選択科目	応用物理Ⅱ	2				2	※
	電気回路Ⅲ	2			2		※
	電子物性工学	2			2		※
	オプトエレクトロニクス	2			2		※
	電子材料工学	2			2		※
	制御工学Ⅱ	2			2		※
	ロボット工学	2			2		※
	センサ工学	2			2		※
	電子システム特講	2			2		※
	情報システム	2			2		※
	電気通信システムA	2			2		※
	情報処理Ⅲ	2			2		※
	データ通信	2			2		※
	画像工学	2			2		※
	システム工学	2			2		※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1			1		集中講義
	フレ研究Ⅰ	1	1				
	フレ研究Ⅱ	1		1			
	フレ研究Ⅲ	1			1		
	研究基礎Ⅰ	1	1				
	研究基礎Ⅱ	1		1			
	研究基礎Ⅲ	1			1		
	小計	39	2	2	2	11(1)	21(1)
	開設単位合計	109	10	10	20	31(1)	37(1)
	開設単位合計(留学生)	111	10	10	22	31(1)	37(1)

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の()数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■ 主な実験設備

室 名	主 な 設 備
共通実験室	液晶チューナブルフィルター、冷却 CCD カメラ、マルチスペクトルイメージングシステム、ハイパースペクトルカメラ
計測工学実験室	電源電流テスターによる開放故障検査装置、オシロスコープ
計算機工学実験室	オシロスコープ、放射線検出器、アナログ波形計測処理システム
回路設計実験室	光電子分光装置、分光光度計、有機薄膜作製装置、光干渉型膜厚計、レーザ薄膜加工装置、原子間力顕微鏡
光エレクトロニクス実験室	蛍光分光光度計、量子効率測定システム、回折格子分光器、He-Cd レーザ、Ar イオンレーザ、極低温冷凍機
電子工学実験室	赤外線サーモグラフィ、汎用 3D プリンタ、3D スキャナ、卓上電子顕微鏡、無散瞳眼底カメラ、パルスオキシメーター
材料工学実験室	レーザ蒸着装置、スパッタリング装置、ホール効果測定装置 X 線回折装置
プラズマ焼結実験室	放電プラズマ焼結機



マインドストームを用いたロボット作製実験（1・2年）



英語による電気回路基礎実験（3年）



VHDL によるデジタル回路作製実験（5年）



地域連携型卒業研究（5年）

■ 主な取り組み

電子システム工学科の Keyword は「ものづくり」。低学年の楽しみながら工学に興味を持つための工学導入教育、授業と効果的にリンクした創造実験・実習、高学年での困難な問題に粘り強く取り組んで解決する問題解決能力を養う少人数設計製作実験、卒業研究では最先端の「ものづくり」に挑戦します。また実験実習科目や基礎専門科目でグローバル教育を積極的に取り入れ世界で活躍できるエンジニアを目指します。

また課外活動においても電子システム工学科の教員が中心となりロボットコンテスト、キャンパスベンチャーグランプリ、パテントコンテストなど「ものづくり」を積極的に取り入れた活動を推進しています。

情報工学科

Department of Information Engineering

「情報」それは人と計算機をつなぐもの

本学科の専門教育では、計算機の基礎と応用についての知識と技術を教授するとともに、実際に計算機を利用して様々な問題解決ができる能力を育成します。さらに、計算機システムおよびソフトウェアシステム、ネットワークを利用するシステムに対して、工学的な手法によるシステムの設計、開発および実現に関する能力の育成を目指します。

また、画像や音声を利用したソフトウェアの開発やコンピュータシステムを構築できる情報システムエンジニア、ブロードバンド・インターネットを活用したソフトウェアの開発やコンピュータネットワークを構築できるネットワークエンジニアを育てます。

■学科の教育目標

1. 広い視野を持ち、社会の要求する情報システムを設計・構築できる。
2. コンピュータの基礎から応用まで体系的に理解し、コンピュータを活用できる。
3. 主体的に問題を提起し、継続して課題に取り組み、解決できる。
4. 文章能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有する。

■教育内容

1. 基礎工学・理論、電気・電子工学、計算機システム、ソフトウェア、情報・通信システムおよびマルチメディア等関連技術の分野をバランスよく系統的に配置します。
2. 実務や新しい問題に創造的に立ち向かう方法や能力あるいは意欲を養うために、講義では、できる限り実習・演習をとりいれます。また、「卒業研究」等の問題解決型授業の教育効果を重視し、同様の形式で運用する「情報工学セミナー」を第4学年に導入します。
3. 工学実験では、実験を大きなテーマとして実施することにより、その中の個別の実験項目の意義を理解させます。また、テーマに対する巨視的な把握と理解を促し、これらを基礎に実践的かつ創造的な応用能力を育成します。
4. 情報工学関連技術の急激な進歩に対応できるように、選択科目の一部の内容については、柔軟な対応がとれるようにしています。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目 [本科(準学士課程)/専攻科(学士課程)]
教授	博士(理学)	福間 一巳 FUKUMA, Kazumi	応用物理Ⅱ、情報特論Ⅰ・Ⅱ／工業数学
	博士(工学)	宮武 明義 MIYATAKE, Akiyoshi	情報処理Ⅰ、人工知能基礎、システムソフトウェア／応用ネットワークプログラミング
	博士(工学)	徳永 修一 TOKUNAGA, Shuichi	創造実験・実習、通信理論、プログラミング言語、画像工学／画像処理工学
		鰐目 正志 SAWARAME, Masashi	計算機アーキテクチャ、情報システムⅠ、データベース
准教授	博士(工学)	金澤 啓三 KANAZAWA, Keizo	創造実験・実習、ソフトウェア設計論／マルチメディア工学
	博士(工学)	河田 純 KAWATA, Jun	基礎電気工学、電気回路Ⅰ、電気磁気学
	修士(工学)	近藤 祐史 KONDOH, Yuji	情報システムⅡ、オートマトン理論、コンパイラ
	博士(理学)	奥山 真吾 OKUYAMA, Shinjo	応用数学、確率統計、情報数学
講師	博士(エネルギー科学)	川染 勇人 KAWAZOME, Hayato	創造実験・実習、応用物理Ⅰ、数値解析
	博士(工学)	篠山 学 SASAYAMA, Manabu	情報処理Ⅰ、システムプログラミング、自然言語処理／データベース設計
	博士(理学)	谷口 優宇 TANIGUCHI, Yasutaka	創造実験・実習、基礎情報工学、情報構造論／アルゴリズムとデータ構造、オブジェクト指向プログラミング
助教	博士(工学)	宮崎 貴大 MIYAZAKI, Takahiro	デジタル回路Ⅰ・Ⅱ

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2				2	
	確率統計	2			2		
	応用物理 I	2				2	
	基礎電気工学	2	2				
	電気回路 I	2		2			
	電子回路 I	2			2		
	デジタル回路 I	2		2			
	デジタル回路 II	2			2		
	基礎情報工学	2			2		
	計算機アーキテクチャ	2			2		
	情報処理 I	2		2			
	情報処理 II	2			2		
	ソフトウェア設計論	4			4		
	通信理論	2				2	
	情報構造論	2				2	
	コンピュラ	2				2	
	情報・学セミナー	6				6	◎
	基礎工学演習	2	2				
	情報工学演習	2			2		留学生対象
	創造実験・実習	4	4				◎
	基礎工学実験・実習	2		2			◎
	基礎工学実験	2			2		◎
	工学実験 I	4			4		◎
	工学実験 II	4				4	
	卒業研究	8				8	
小計	66	8	8	18	20	12	
	小計(留学生)	68	8	8	20	20	12
選択科目	応用物理 II	2				2	*
	情報数学	2				2	*
	数値解析	2				2	*
	電気磁気学	2				2	*
	半導体工学	2				2	*
	システム工学	2				2	*
	システムプログラミング	2				2	*
	システムソフトウェア	2				2	*
	情報システム	2				2	*
	人工知能 I	2				2	*
	人工知能 II	2				2	*
	画像工学	2				2	*
	データベース	2				2	*
	コンピュータネットワーク I	2				2	*
	コンピュータネットワーク II	2				2	*
	情報セキュリティ	2				2	*
	校外実習	1				1	
	特別講義 I	1				1	集中講義
	特別講義 II	1				1	集中講義
	フレ研究 I	1	1				
	フレ研究 II	1		1			
	フレ研究 III	1			1		
	研究基礎 I	1	1				
	研究基礎 II	1		1			
	研究基礎 III	1			1		
	小計	41	2	2	2	13(1)	21(1)
	開設単位合計	107	10	10	20	33(1)	33(1)
	開設単位合計(留学生)	109	10	10	22	33(1)	33(1)

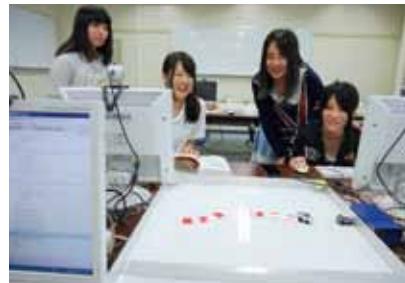
備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の()数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)



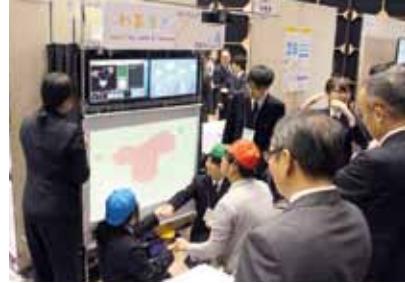
マイクロコンピュータ実験(3年)



コントロール実験



3Dコンテンツの制作(5年)



プログラミングコンテストのデモ風景

■主な取り組み

情報工学科は学生活動の支援を第1に考え、試験前と試験中の土曜日に「土曜フリースクール」(学生からの質問や進路相談、授業の補講、追実験、卒業研究などに本科教員が対応)、「公開面接練習会」(5年生を対象に本科教員が行う模擬面接)、「進路ガイダンス」(4年生を対象に進学・就職が内定した5年生の体験談や心構えなどの助言)、「第4、5学年における継続的な研究活動」(4年生から指導教員のもとで研究活動を開始し、5年生の卒業研究まで2年間継続して研究を行う)を実施しています。また、「全国高専プログラミングコンテスト」に参加する学生を積極的にサポートしています。

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
制御回路実験室	3D入出力装置(3Dスキャナ、切削RPマシン)、3D CAD・CAMソフトウェア
基礎工学実験室	電子回路教育用設計・試作プラットフォーム、LabVIEW、電子回路シミュレータ
ネットワーク応用実験室	ネットワーク技術者育成実験システム(ルータ、L2、L3スイッチ)
知識情報処理実験室	大容量テキスト解析用サーバ
ICT ラボ	80型タッチディスプレイ
資料室	AI学習用サーバ
共同利用実験室	組込み技術育成ロボット教材

専攻科

香川高等専門学校専攻科は、科学技術創造立国を目指す我が国において、分析・解析能力、創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け、様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに、共同研究等をとおして地元産業、地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。

この目的を達成するために、本専攻科では、高松キャンパスに創造工学専攻、詫間キャンパスに電子情報通信工学専攻を置いています。

専攻科修了時には、学士（工学）の学位が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から授与されます。本校専攻科には平成27年度より新たな審査方式による特例が適用されていますので、専攻科での審査によって学位が取得できます。また、大学院入学の資格も得られます。

専攻科の教育目標 〈育成しようとする技術者像〉

■創造工学専攻

1. 技術の produk が社会や自然に及ぼす影響を判断できる力と責任感、倫理観を養うため、人類、世界、文化に関心を持ち、視野の広い技術者を育成する。
2. 自然科学と専門技術の基礎を身につけ、それを具体的な問題に応用できる技術者を育成する。
3. 自ら課題を見出し、自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。また互いに協力し合って課題に取り組める創造力豊かな技術者を育成する。
4. 物事を論理的に考えて、それを文章と口頭で明確に表現できる力を身につける。英語では基本的な記述、表現ができる語学力を身につけた技術者を育成する。

■電子情報通信工学専攻

1. 技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身につけた電子情報通信分野における実践的高度開発型技術者を育成する。
2. 技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できる技術者を育成する。
3. 与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組むことができる技術者を育成する。
4. 情報機器を活用して情報収集や情報分析、文書作成、口頭発表ができ、日本語及び英語で共同作業ができる技術者を育成する。

■創造工学専攻（高松キャンパス）（入学定員 24名）

創造工学専攻は、高専本科で修得した機械工学、電気情報工学、機械電子工学及び建設環境工学に関する分野の知識と技術を基礎として、より高度な専門知識を授けると共に、豊富な実験・実習、特別研究を通して問題解決能力、実行力を育成します。具体的には、以下に示す4つのコースのいずれかを選択し、技術者としての倫理観、責任感を育みながら、先進的実践的技術者の育成を目指します。

■機械工学コース

本コースは、機械工学の知識をベースに、社会性、経済性及び安全性に配慮し、既存の考え方だけでなく工夫考案したアイデアを設計指針に取り入れ、目的に合致した「モノづくり」を行うための幅広い思考力と独創性を身に付けた技術者を育成することを目標としています。

また、一方で、数学や力学などの機械工学に関する基礎知識に加え、先端技術である CAD / CAM (コンピュータ支援設計／製造) 及び CAE (コンピュータ支援技術)、機械制御技術、情報処理技術などの科目を取り入れ、機械工学を中心として工学全般にアプローチできる機械技術者を育成することを目標としたカリキュラムになっていることも特長です。

■電気情報工学コース

本コースは、本科で修得した電気回路や情報処理等の電気電子・情報通信分野における工学基礎と専門工学基礎を基礎として、学習・教育目標をより高度な観点から完成させることを目的としています。また、最新のトピックを含めた専門科目を深く学ぶと共に、本科から一貫した研究テーマを追求し、その過程における討議、実験、推考を繰り返しながら着実に論理的な思考力と実行力を身につけることを目的とします。さらに、技術の習得を軸としながら、輪講や各種実習におけるコミュニケーションを通して技術者としての心構えや、人間性を確立することを目指します。

■機械電子工学コース

本コースは、本科の学習内容を継承して、機械工学、電子工学及びコンピュータ制御技術の融合したメカトロニクス分野の基礎知識と基本的問題への応用力をさらに高めるための教育を行います。また、講義、実験・実習、輪講、および充実した特別研究と学協会での研究発表等の経験をとおして、創意工夫して課題を解決する行動力、論理的な思考と表現力、幅広いコミュニケーション能力を身に付け、技術者としての責任感と倫理観を養います。これらの能力を基礎として、高度な機械システムの開発、設計および製作などの「モノづくり」を担う実践的技術者を育成することを目指します。

■建設環境工学コース

本コースでは、本科で修得した建設環境工学分野の知識と技術を基礎にして、より高度な専門的知識や技術を修得します。このために、建設環境工学分野のより高度な知識を得るための講義と共に、工学演習、実験実習、特別研究などの問題解決力、応用力、実行力、プレゼンテーション力などを養う科目を数多く開講しています。特別研究を特に重視しており、学外における論文発表や口頭発表を通して、論理的思考力、論文作成力、発表力などを養っています。

本コース修了生には、設計、計画、防災、環境などの専門知識を持つ問題解決型建設技術者として、官公庁、コンサルタント、建設会社等への就職、及び大学院進学への道が開けています。

■電子情報通信工学専攻（詫間キャンパス）（入学定員 18 名）

本専攻では、専門性を深めながら、実践的で独創的な開発能力、コミュニケーション能力及び自律性を備えた技術者を育成します。そのため、本科 4 年次から専攻科 2 年次までの一貫した教育課程（教育プログラム）を用意しています。教育プログラムは 2 コース制で、日本技術者教育認定機構（JABEE）に準拠した「電子情報工学コース」、及び、専門知識や技術の修得を重視する「電子情報通信専修コース」があり、専攻科入学時に 1 つのコースを選択します。※(注)

教育課程は、「教養科目」、「工学基礎科目」及び「専門科目」で構成されます。本科の履修学科に対応した電子、情報、通信分野の推奨科目を設けているので、本科からの継続的な学修ができます。また、特別研究や特別実験・演習を重視しており、特に、2 年次にはチームでコミュニケーションを取りながらシステムを構築するエンジニアリング・デザイン教育を実施します。さらに、他専攻や大学等で修得した単位が規程の範囲内で認められます。

■電子情報工学コース

専門分野の高度な知識・素養を身につけ複合領域にも対応できる幅広い視野を持ち、高い問題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者の育成を目指します。大学や企業との共同研究、地域の産業振興に貢献できる研究や開発を行います。

修了生は国際的に技術レベルが保証され、技術士第一次試験が免除され、修習技術者となります。さらに、4 年間の実務経験の後、第二次試験に合格すると技術士になります。

■電子情報通信専修コース

電子、情報、通信分野の高度な専門知識と技術を学び、職業に必要な能力を身につけることを目指します。教育課程は、電子情報工学コースと同一ですが、より柔軟な科目選択が可能です。

(注)：電子情報通信工学専攻の電子情報工学コースは、平成 27 年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）による継続審査を受け、認定されました。JABEE が認定する教育プログラムの対象者は、高校からの編入学者も含め、本科から専攻科に進学する者です。また、他高専からの専攻科入学生も該当します。プログラムの修了者には、技術士一次試験免除等の利点があり、国際的な場で活躍する技術者となることが期待されています。

また、電子情報通信専修コースは、JABEE の基準を意識せずに、自由に学べる教育プログラムです。

■創造工学専攻教育課程

区分	授業科目	授業形態	単位数	学年別配当				備 考	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
教養科目	経営論	講義	2	2					
	実践英語	講義	2	2					
選択	法学	講義	2			2			
	文学作品講読	講義	2			2			
必修	技術者倫理	講義	2	2					
	数学特論Ⅰ	講義	2	2					
工学基礎科目	現代物理学	講義	2		2				
	知的財産権	講義	2		2				
選択	工業英語	講義	2		2				
	数学特論Ⅱ	講義	2		2				
必修	物理化学	講義	2		2				
	分析化学	講義	2			2			
選択	応用物理学	講義	2	2					
	海外語学研修	実習	1		1				
教養・工学基礎科目開設単位数計			27	11	10	6	0		
教養・工学基礎科目修得単位数計			16 単位以上						
必修	工学実験・実習Ⅰ	実験	2	2				機械工学コース科目	
	工学実験・実習Ⅱ	実験	2		2				
選択	特別研究Ⅰ	実験	6	6				電気情報工学コース科目	
	特別研究Ⅱ	実験	10			10			
必修	輪講Ⅰ	演習	2	2				建設環境工学コース科目	
	輪講Ⅱ	演習	2			2			
選択	特別講義	講義	2		2			機械電子工学コース科目	
	インターンシップⅠ	実習	1		1				
必修	インターンシップⅡ	実習	2		2			建設環境工学コース科目	
	インターンシップⅢ	実習	4		4				
選択	インターンシップⅣ	実習	6		6			モーションキャプチャーによる運動解析	
	内燃機関工学	講義	2	2					
必修	計算力学特論	講義	2		2			内燃機関の性能試験	
	弾塑性力学	講義	2		2				
選択	材料強度学特論	講義	2		2			土質材料の三軸圧縮実験	
	振動工学特論	講義	2	2					
必修	信頼性工学	講義	2		2			廃水の水質分析実験	
	環境電磁工学	講義	2	2					
選択	現代制御理論	講義	2	2				モーションキャプチャーによる運動解析	
	エネルギー変換工学	講義	2		2				
必修	プロジェクト管理論	講義	2		2			内燃機関の性能試験	
	電子物性	講義	2		2				
選択	集積回路	講義	2		2			土質材料の三軸圧縮実験	
	半導体工学	講義	2		2				
必修	パワーエレクトロニクス	講義	2		2			廃水の水質分析実験	
	情報通信工学	講義	2	2					
選択	マイクロ波工学	講義	2		2			モーションキャプチャーによる運動解析	
	ディジタル信号処理	講義	2	2					
必修	知識工学	講義	2		2			内燃機関の性能試験	
	画像処理工学	講義	2		2				
選択	伝熱工学特論	講義	2	2				土質材料の三軸圧縮実験	
	動力学特論	講義	2	2					
必修	最適化論	講義	2		2			廃水の水質分析実験	
	数値解析特論	講義	2		2				
選択	先端接合工学	講義	2		2			モーションキャプチャーによる運動解析	
	エネルギー工学特論	講義	2	2					
必修	制御工学特論Ⅰ	講義	2		2			内燃機関の性能試験	
	制御工学特論Ⅱ	講義	2		2				
選択	メカトロニクス	講義	2	2				土質材料の三軸圧縮実験	
	耐震設計学	講義	2	2					
必修	維持管理工学	講義	2		2			廃水の水質分析実験	
	構造解析学	講義	2		2				
選択	交通計画	講義	2		2			モーションキャプチャーによる運動解析	
	都市デザイン	講義	2		2				
必修	環境防災工学Ⅰ	講義	2	2				内燃機関の性能試験	
	環境防災工学Ⅱ	講義	2		2				
選択	流体力学特論	講義	2	2				土質材料の三軸圧縮実験	
	建設数理計画学	講義	2	2					
必修	社会基盤計画学	講義	2	2				廃水の水質分析実験	
	情報システム	講義	2		2				
選択	建設工学演習	演習	2	2				モーションキャプチャーによる運動解析	
	環境倫理・マネージメント	講義	2		2				
専門科目開設単位数計			121	57	30	34	0		
専門科目修得単位数計			46 単位以上						
教養・工学基礎・専門科目開設単位数合計			148	68	40	40	0		
修得単位合計			62 単位以上						



内燃機関の性能試験



土質材料の三軸圧縮実験



廃水の水質分析実験



揺らぎ回路の特性試験



モーションキャプチャーによる運動解析

■電子情報通信工学専攻教育課程

区分	授業科目	授業形態	単位数	学年別配当				備考	
				1年		2年			
				前期	後期	前期	後期		
教養科目 必修	コミュニケーション英語 I	演習	2	1	1				
	コミュニケーション英語 II	演習	2			1	1		
選択	文学特論	講義	2			2			
	技術者倫理	講義	2	2					
工学基礎科目 必修	物理科学特論	講義	2		2				
	応用数学特論	講義	2	2					
選択	知的財産権	講義	2		2				
	工業英語	講義	2	2					
工業数学		講義	2		2				
	教養・工学基礎科目開設単位数計		18	7	7	3	1		
修得単位計			必修6単位を含む14単位以上						
必修	特別研究 I	実験	6	6					
	特別研究 II	実験	4			4			
選択	特別実験・演習 I	実験	4	4					
	特別実験・演習 II	実験	6			6			
専門科目 必修	量子力学	講義	2				2		
	情報工学概論	講義	2	2					
選択	ディジタル信号処理工学	講義	2			2			
	応用電磁気学	講義	2	2					
選択	グラフ理論	講義	2	2					
	情報ネットワーク論	講義	2		2				
選択	電子回路特論	講義	2		2				
	計測工学特論	講義	2				2		
選択	システム制御工学	講義	2			2			
	アルゴリズムとデータ構造	講義	2	2					
選択	マルチメディア工学	講義	2			2			
	画像処理工学	講義	2				2		
選択	特別講義	講義	2		2				
	インターンシップ I	実習	1		1				
選択	インターンシップ II	実習	2		2				
	インターンシップ III	実習	4		4				
選択	インターンシップ IV	実習	6		6				
	通信工学	講義	2	2				通信ネットワークコース科目	
選択	電磁波・光波工学	講義	2		2				
	光通信工学	講義	2				2		
選択	無線工学特論	講義	2				2		
	応用電子物性工学	講義	2		2			電子システムコース科目	
選択	集積回路工学	講義	2			2			
	ディジタル制御工学	講義	2				2		
選択	オブジェクト指向プログラミング	講義	2		2			情報コース科目	
	応用ネットワークプログラミング	講義	2		2				
選択	データベース設計	講義	2				2		
	専門科目開設単位数計		79	28	15	17	19		
修得単位計			必修20単位を含む48単位以上						
教養・工学基礎・専門科目開設単位数合計			97	35	22	20	20		
修得単位数合計			必修26単位を含む62単位以上						



ストックホルム国際青年科学セミナー
(写真提供・国際科学技術財団)



マイクロソフト主催Imagine Cup2015世界大会
(画像提供・マイクロソフト(株))



国際会議NANO SciTech2017



専攻科棟(高松キャンパス)



専攻科棟(詫間キャンパス)

国際交流活動

◇国際学術交流

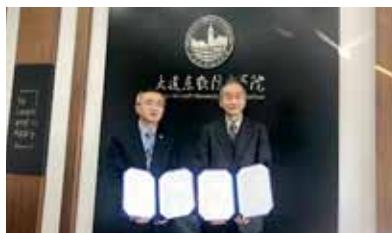
学術交流協定の締結

2005年 8月 東洋工業専門大学(韓国)(現 東洋未来大学校)
2009年 6月 ダナン工科大学(ベトナム)
2009年 12月 正修科技大学(台湾)
2010年 6月 ソウル大学校工科大学(韓国)
2010年 8月 マラ工科大学(マレーシア)
2012年 6月 クライストチャーチポリテク大学(ニュージーランド)
2013年 7月 カーン大学(フランス)
2014年 8月 ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校(タイ)
2015年 3月 泰日工業大学(タイ)
2015年 12月 トゥール大学(フランス)
2018年 7月 マレーシア工科大学(マレーシア)
2018年 12月 大連東軟信息学院(中国)

Dongyang Mirae University(DMU)
Danang University of Technology (DUT)
Cheng Shiu University(CSU)
College of Engineering, Seoul National University(SNU)
Universiti Teknologi MARA(UiTM)
Christchurch Polytechnic Institute of Technology (CPIT)
University of Caen Basse-Normandie
Rajamangala University of Technology Thanyaburi (RMUTT)
Thai-Nichi Institute of Technology (TNI)
Universite Francois-Rabelais Tours (UFRT)
Universiti Sains Malaysia (USM)
Dalian Neusoft University of Information (DNUI)



USMとの学術交流協定の調印



DNUIとの学術交流協定の調印



RMUTTとの学術交流協定の更新

◇学生の国際交流活動

・海外インターシップへの派遣（派遣国と学生数）

2009年度：タイ(2)、2010年度：フィリピン(1)、2011年度：中国(1)、インドネシア(1)、フィリピン(1)

2012年度：香港(1)、シンガポール(1)、2013年度：米国(1)、中国(1)、台湾(1)、

2015年度：タイ(1)、香港(1)、ベトナム(1)、2017年度：マレーシア(1)、2018年度：タイ(4)

・英語による専門授業（協定校からの招聘講師）

2010年10月：建設環境工学科（ソウル大学校）、2011年1月：機械工学科（正修科技大学）、9月：電気情報工学科（カイロ大学）、2013年1月：通信ネットワーク工学科（正修科技大学）、6月：建設環境工学科（カーン大学）、10月：建設環境工学科（マレーシア国民大学）、10月：詫間キャンパス（マラ工科大学）

2017年12月：高松キャンパス（ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校）、2018,2019年1月：詫間キャンパス（マラ工科大学）

◇香川高専・他高専・高専機構が主催・共催した学生の国際交流活動(2015~2018年度)

期間	派遣・受入	学生数	派遣先・受入国	プログラム
2015年8/4-11	派遣	4	マレーシア	持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム(ISTS2015)
2015年8/14-30	派遣	1	シンガポール	高専生のための英語キャンプ
2015年8/15-9/13	派遣	6	ニュージーランド	海外語学研修 (CPIT)
2016年3/12-27	派遣	1	シンガポール	シンガポール技術英語研修(津山高専)
2016年8/19-9/18	派遣	6	ニュージーランド	海外語学研修 (Ara)
2016年8/20-9/11	派遣	1	オーストラリア	海外語学研修
2016年10/4-12	派遣	3	インドネシア	持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム(ISTS2016)
2016年12/17-21	派遣	1	シンガポール	海外協定校合同研究発表会
2017年3/12-12/30	派遣	1	カナダ	平成28年度後期(第5期)官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～地域人材コース
2017年8/19-27	派遣	1	フィンランド	持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム(ISTS2017)
2017年8/19-9/17	派遣	12	ニュージーランド	海外語学研修 (Ara)
2017年8/23-9/1	派遣	1	タイ	TNIサマープログラム2017
2017年8/28-9/9	派遣	1	中国	海外語学研修
2017年9/17-24	派遣	1	シンガポール	国際工学教育研究集会(ISATE2017)
2018年3/4-14	派遣	5	オーストラリア	平成29年度オーストラリア海外研修旅行
2018年3/10-25	派遣	1	シンガポール	高専生のための英語キャンプ
2018年8/18-9/16	派遣	7	ニュージーランド	平成30年度ニュージーランドAra海外英語演習
2018年9/2-13	派遣	10	タイ	平成30年度 アクティビティ研修inタイ
2018年9/3-16	派遣	1	中国	大連東軟信息学院 夏期短期留学プログラム
2018年9/18-21	派遣	1	中国(香港)	ISATE2018
2018年10/7-13	派遣	1	タイ	第8回「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際セミナー」(ISTS 2018)
2019年3/9-30	派遣	1	オーストラリア	オーストラリア・クイーンズランド工科大学研修(QUT研修)

◇香川高専グローバルエンジニア研修プログラム（GET プログラム）

【概要】 本校と学術交流協定を締結する海外の大学（以下、協定校）との間で研究課題を共有できる分野において、本校学生を派遣し協定校の教育研究環境で自らの専門分野に取り組む。また協定校から学生を受入れ、共に研究課題に取り組む。これらによって、英語を用いたコミュニケーション能力を向上させると共に、海外異文化の理解や自国日本の理解を深めることを目標とする。

これまでの実績

派遣型	派遣先	実施時期	派遣人数
マラ工科大学	2014年, 2/25 – 3/11	5	
正修科技大学	2014年, 3/20 – 3/30	2	
マラ工科大学	2014年, 9/3 – 9/19	4	
マラ工科大学	2015年, 3/1 – 3/11	5	
マラ工科大学	2016年, 2/26 – 3/15	5	
トゥール大学	2016年, 9/29 – 12/19	1	
マラ工科大学	2017年, 2/23 – 3/15	3	
ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2017年, 3/1 – 3/10	7	
ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2017年, 9/3 – 9/27	1	
マラ工科大学	2018年, 2/25 – 3/13	2	
ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2018年, 3/8 – 3/21	5	
トゥール大学	2018年, 10/2 – 12/14	3	
	計	43	

受入型	受入元	実施時期	受入人数
正修科技大学	2014年, 7/28 – 8/11	2	
ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2015年, 4/10 – 4/30	6	
トゥール大学	2016年, 4/11 – 6/29	1	
マラ工科大学	2017年, 3/14 – 3/31	15	
トゥール大学	2017年, 4/13 – 6/30	4	
ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2017年, 6/6 – 7/31	2	
ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2017年, 6/13 – 9/12	1	
トゥール大学	2018年, 4/12 – 6/30	3	
ラジャマンガラ工科大学	2018年, 5/1 – 6/30	1	
ラジャマンガラ工科大学	2018年, 5/1 – 7/31	5	
	計	40	

◇国際シンポジウム等の開催（2015～2018年度）

- ・「環境地盤工学に関する国際シンポジウムGEE」主催・共催：香川高専ほか2015年5月、2016年5月、2018年5月
- ・「ナノテクノロジーに関する国際会議 NanoSciTech&IC-NET」共催：マラ工科大学・名古屋工業大学・香川高専 2014年2月、2015年2月、2016年2月、2017年2月、2018年2月、2019年3月
- ・「電子工学及びナノテクノロジーに関する国際セミナー International Seminar on Electronics Engineering and NANO Technology」共催：マラ工科大学・香川高専 2017年3月
- ・「土木工学と社会資本整備に関する国際会議 (InCIEC2015)」：マラ工科大学 2015年9月
- ・「エコなエネルギー、材料科学および工学に関するシンポジウム EMSES」共催：RMUTT、京都大学、京都工芸繊維大学、香川高専 2016年12月、2018年4月
- ・「International Conference on Creativity, Innovation, and Invention in Digital Technology(CIIDT)」本校共催 2018年12月



台湾国立大甲高級工業職業学校 教育旅行団



NANO SciTech & IC-NET 2015 (マラ工科大学)

◇外国人留学生 国・年度毎の留学生入学者数

出身国 編入学年度	デバイシングュラ	ブラジル	カンボジア	中国	コロンビア	インド	インドネシア	ケニア	韓国	ラオス	マレーシア	モンゴル	フィリピン	スリランカ	タイ	ウガンダ	ベトナム	パキスタン	マダガスカル	計
平成31年度(2019年度)										2	1			(1)				1	5	
平成30年度(2018年度)											3								3	
平成29年度(2017年度)										2	2				1				5	
平成28年度(2016年度)										4	1				1				6	
平成27年度(2015年度)								(2)	1		1						1		5	
平成26年度(2014年度)							2			2									4	
平成25年度(2013年度) 昭和60年度(1985年度)	7	1	4	5	1	1	11	1	2	8	70	6	9	7	10	2	11		156	
計	7	1	4	5	1	1	13	1	4	9	80	14	9	7	13	2	11	1	184	

()は専攻科入学者数

留学生関係行事

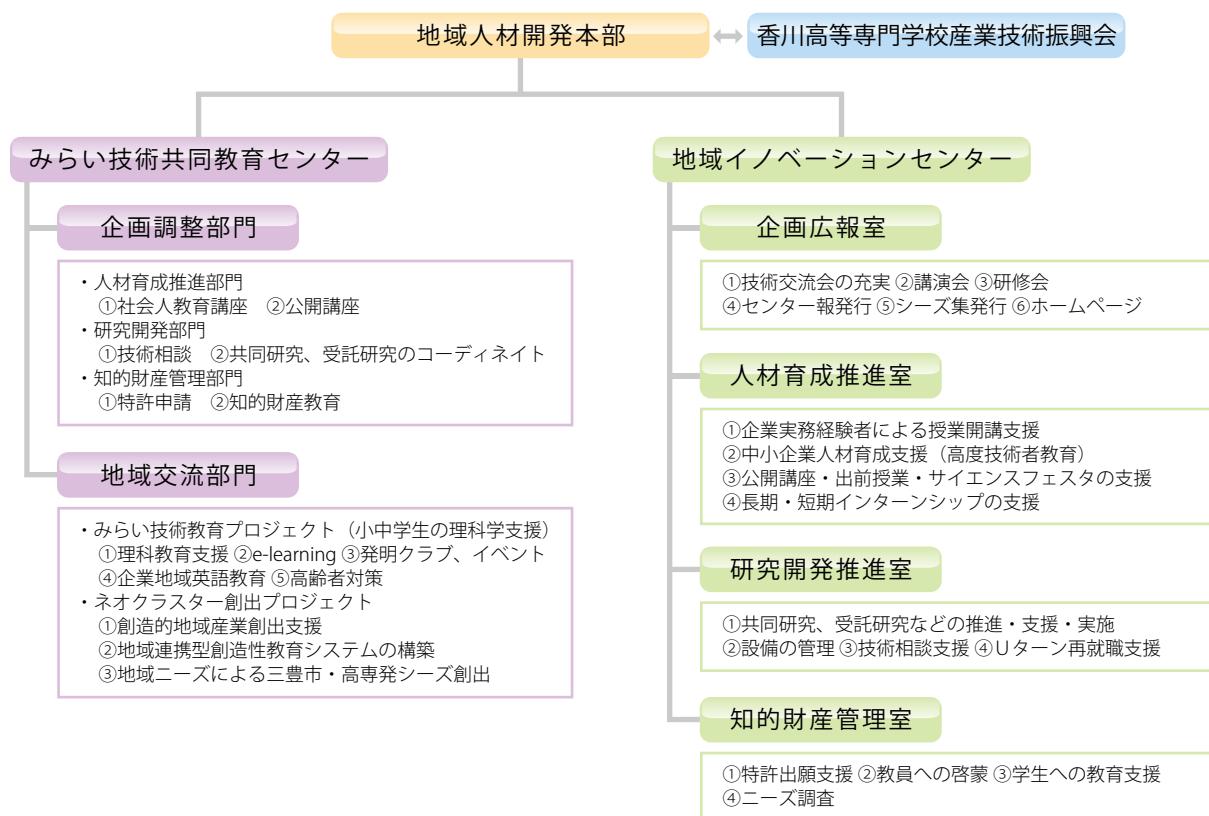
- ① 四国地区高等専門学校外国人留学生交流活動
- ② 留学生見学旅行（両キャンパス合同）
- ③ 「留学生交流会」を毎年開催
- ④ 留学生の地域活動
(国際交流団体等の主催する各種イベントへの参加)



留学生交流会（高松・詫間キャンパス合同）

地域人材開発本部

◆地域人材開発本部組織図



◆スタッフ

地域人材開発本部	本部長	安蘇 芳雄（校長）
	副本部長	岩田 弘（機械工学科 教授）
	教授	関 丈夫（四国地区高専産学官連携コーディネーター）
みらい技術共同教育センター	センター長	三崎 幸典（電子システム工学科 教授）
	副センター長	金澤 啓三（情報工学科 教授）
	企画調整部門長	三河 通男（専任 電子システム工学科兼担 准教授）
	地域交流部門長	岩本 直也（電子システム工学科 講師）
	センター長	嶋崎 真一（機械電子工学科 准教授）
地域イノベーションセンター	副センター長	岩田 弘（専任 機械工学科兼担 教授）
	企画広報室長	高橋 宏明（一般教育科 教授）
	人材育成推進室長	向谷 光彦（建設環境工学科 教授）
	研究開発推進室長	吉岡 崇（電気情報工学科 助教）
	知的財産管理室長	山下 智彦（機械電子工学科 助教）

◇みらい技術共同教育センター（詫間キャンパス）

推進 プロジェクト

みらい技術共同教育センターでは、平成30年度三豊市・東京大学大学院工学系研究科松尾研究室・香川高等専門学校との連携協力に関する合意書締結により学生へのAI(ディープラーニング：DL)教育を開始し、平成31年4月に開設された「一般社団法人みとよAI社会推進機構：MaIZM」、「東京大学大学院松尾研究室みとよサテライト」に協力し高専学生へのAI(DL)教育とAI(DL)応用を積極的に行ってています。



「東京大学大学院松尾研究室みとよサテライト」オープン

施設概要

多目的実験室、多目的ホール、ものづくり共同利用実験室、食品研究開発共同利用実験室、ICT関係共同研究室Ⅰ、Ⅱ、集積回路実験室（デバイス製作室、高精度分析室）



集積回路実験室（高精度分析室）



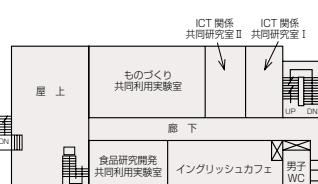
多目的実験室



ものづくり共同利用実験室



1階平面図



2階平面図



3階平面図



4階平面図

集積回路実験室では、各種高機能性電子材料薄膜の作製・微細加工およびそれらの高分解能分析評価を行うための装置を備え、教員及び学生の実験・研究に利用されています。電子材料薄膜の作製・微細加工用装置としては高周波マグネットロンスパッタリング装置、プラズマ CVD 装置、真空蒸着装置、自合わせ露光装置、電子線描画装置などがあり、高分解能分析評価装置としてはエネルギー分散形 X 線分光器 (EDS) 付フィールドエミッション走査電子顕微鏡 (FE-SEM)、残留農薬分析装置、薄膜材料結晶解析 X 線回折システム、プラズマ発光分析装置、蛍光 X 線分析装置、表面形状測定装置があり、学外からも利用が可能です。



電子線描画装置



EDS 付フィールドエミッション走査電子顕微鏡



薄膜材料結晶解析 X 線回折システム



表面形状測定装置



残留農薬分析装置



蛍光 X 線分析装置

◇地域イノベーションセンター（高松キャンパス）

業務内容

地域イノベーションセンターは地域における知の拠点としての役割を担うべく、走査型プローブ顕微鏡をはじめとする最新の表面分析機器や材料分析機器、学内で使える有限要素法解析装置などを整備し、産学共同研究・受託研究の環境を整備しています。また、プロジェクト室やクリーンルームを設けて研究の加速的な推進に供しています。さらに、香川高専産業技術振興会や地域企業との交流のためにイブニングセミナーなどの各種行事を開催しています。

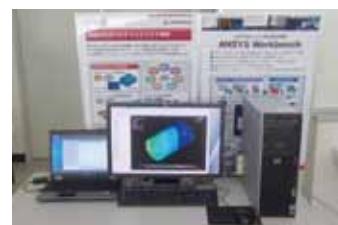
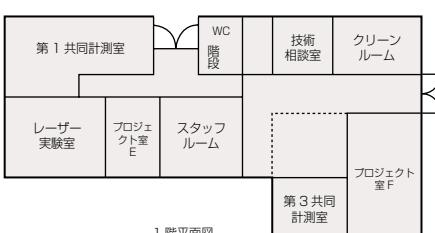
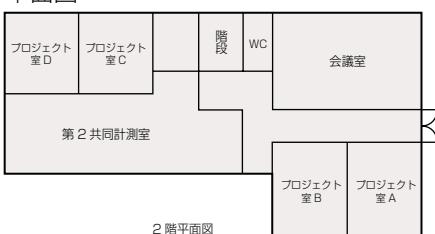


講習会

設備

多目的X線回折装置、波長分散型蛍光X線分析装置、高真空装置、原子吸光分光光度計、卓上顕微鏡、エリプソメータ用裏面反射除去装置、走査型プローブ顕微鏡、汎用有限要素法解析システム、サーモグラフィカメラ、卓上型スパッタコーダ

平面図



◇香川高専教員の研究分野、キーワード

研究部門	キーワード
産業・工業部門	固体力学・塑性加工・材料強度・疲労強度・流体力学・流体工学・機械設計・信頼性工学・エネルギー工学
素材加工部門	材料学・材料工学・機械材料学・材料加工学・溶接工学
振動・制御部門	機械力学・振動工学・機械制御・メカトロニクス・ロボット
電気材料部門	誘電体・半導体・磁性体・電磁界・薄膜
回路設計部門	電子回路・論理回路・回路設計
計測・分析部門	計測・音響・騒音・信号処理・スペクトル解析
画像・認識部門	画像処理・パターン認識・医用
情報・通信部門	ソフトウェア・ネットワーク・情報コンテンツ・無線通信・教育工学
建設・構造部門	構造・地盤・橋梁・コンクリート・水理・交通・計画・都市計画・計算力学(数値解析)・海岸・調査・地理情報システム
環境・防災部門	環境保全・バイオ技術・防災・安全システム・BCP(事業継続計画)・ため池
地域・文化部門	語学・物理学・化学・数学・人文科学・社会科学・体育

◇産学官連携活動

[香川高等専門学校産業技術振興会]

設立 平成 21 年 8 月 28 日

目的 地域産業界と香川高専との連携を深め、香川高専が有する人・知・物的資源を活用し、技術交流や情報交換等各種事業を通して、地域産業の発展を図るとともに、香川高専の教育研究の振興に寄与しています。

事業内容 産学連携による技術開発の推進、地域産業の発展。技術に関する講演会、講習会、研修会の開催及び情報誌の発行。技術分野での技術相談、情報交換。企業社員の研修等育成支援事業。共同研究等推進支援事業。インターンシップ。仕事研究セミナー。共同教育。香川高専の教育・研究の充実、振興。その他。



定期総会



会員企業見学会



仕事研究セミナー

[四国地区高専地域イノベーションセンター]

目的 阿南工業高等専門学校、香川高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校及び高知工業高等専門学校は、四国地区高専の持つポテンシャルと地域の特性を生かし、地域の活性化と産業の振興に寄与する産学官連携活動を組織的系統的に展開しています。

業務内容

1. イノベーション創出部門
四国地区高専が連携して行う技術シーズとニーズのマッチングに関する事。技術相談、共同研究等の産学官連携活動に関する事。
2. 知的財産部門
四国地区高専が連携して行う知的財産管理及び知的財産教育に関する事。
3. 四国地区高専連携部門
前部門の業務以外で、センターの目的を達成するために必要な業務に関する事。

◇地域社会連携活動

[公開講座・セミナー]

2018.5.12 サイエンス教室	2018. 9. 1~2 プログラムを作ってロボットを動かそう!
2018.5.13 高専どばじょとわくわく教室	2018. 9. 3 有限要素法解析入門
2018.5.27 NHK高専ロボコン用ロボットの実演とミニロボ操縦体験	2018. 9.16 IoT開発講座
2018.6. 9 天気で結晶が変わる!ストームグラスを作ろう	2018. 9.16 第16回スイム記録会＆スタート練習会in三豊
2018.6.17 小学生向け4コママンガ体験教室	2018. 9.29 サイエンス教室
2018.6.23 放射線が見える「霧箱」を作ろう	2018.10.13~14 ミニソーラーカーを作ってみよう!
2018.6.23 第15回スイム記録会＆スタート練習会in三豊	2018.10.20 サイエンス教室
2018.6.24 高嶺石を使った勾玉づくり	2018.10.28 NHK高専ロボコン用ロボットの実演とミニロボ操縦体験
2018.7.20 夏休みぼうさい塾;土木のチカラをモノづくりで体験	2018.11. 2 三輪液状化試験ライブ(ADVANCEコース)
2018.7.23 天気で結晶が変わる!ストームグラスを作ろう	2018.11. 3~4 手作りランプを作ろうクリスマスバージョン
2018.7.28 テレビ石を作ろう	2018.11.11 ロボット体験教室-ロボットを動かしてみよう
2018.7.28 アロマキャンドルを作ろう～物が燃える仕組みを考える～	2018.11.17 流れのふしぎな世界～実験ショーアンドワークショップ～
2018.7.29 アロマランプを作ろう	2018.11.27 JGS1319-2017に基づいた原位置透水試験法の展開(実践力養成コース)
2018.7.29 電子回路工作にチャレンジ「ZigZagロボカーを作ろう!」	2018.11.29~30 組込み技術セミナー(実力養成コース)
2018. 4 夏休み歴史教室:サイエンス編	2018.12. 1 工具の使い方講座～はじめてのガンプラづくり～
2018. 4 風に向かって進む!ウインドカーを作ろう	2018.12.15 放射線が見える「霧箱」を作ろう
2018. 5 長く回り続けるコマを作ろう	2018.12.15 楽しんでみよう!硬式野球!～硬式ボールを打つ・投げる・捕る～
2018. 5 親子でかんたんプログラミング!ゲームプログラムにチャレンジ	2018.12.22 中学生のための高専数学講座
2018.8.22 三軸試験実技習得セミナー(BASICコース)	2019. 1.19 サイエンス教室
2018.8.24~25 AI(人工知能)サマースクール	2019. 2. 9 スロットカーを作ろう!
2018.8.25 Android入門講座	2019. 3. 2~3 ミニソーラーカーを作ってみよう!
2018.8.25 勾玉づくりに挑戦!	2019. 3.21 電子あんどんをつくろう

研究活動等

◇科学研究費助成事業

- 電磁調理器による漏れ磁界と接触電流の実態調査に基づいたドシメトリ研究
- コンピテントエンジニア育成志向の先端実験流体力学研究の実践と広域工学教育への適用
- 理科室で構築するナノテクプラットフォーム
- 高専一貫教育に適合させた英語自律学習支援システムの開発と教育効果の検証
- 広帯域センサレス力制御ロボットによる熟練者技能の触覚力覚クラウドシステムの開発
- 地方部における地域公共交通計画立案のための交通系ビッグデータの活用
- アイカメラを用いた農作業技術継承マニュアルの提案
- 会話ロボットとの自由な対話に資するコミュニケーション断絶防止技術の研究
- レーザープラズマを用いた高輝度X線集光技術の開発
- 模擬サーバイメーターを用いた放射線遮蔽教育ツールの開発とその教育効果の評価
- 数式処理とネットワークを対象にした教材開発支援ライブラリ
- 人が持つ技能の特徴化ならびにスポーツ指導への活用に関する研究
- 風を活用したインタラクションシステムの開発
- 利便性と客観性の両方に優れた打音検査用ハンマーの開発と効果の検証
- 原始重力波のガウス性検定によるインフレーション宇宙の徹底究明
- 開発途上国における水・廃棄物問題改善のための包括的都市衛生政策の構築
- ブータン王国の農業用水需給バランス評価と棚田地形を活かした小規模貯水施設の開発
- 機械翻訳と意味順英語学習法を融合させた英文ライティングプロセスの研究
- 中小技術職現場における女性の雇用就労の構造研究－女性技術者就業マッチング設計－
- 付け爪を応用了した皮膚に触れないウェアラブル心拍センサ：生活環境下での実証実験
- Web授業受講者を評価するアフェクティブモニタリングシステムの開発
- 統計的独立性と種々の数理的構造に基づく音源分離理論とその拡張
- スマートファクトリーを実現させる人-ロボット協調生産システムの設計
- 先進内視鏡手術における執刀医のニーズに応じた「内視鏡知覚センシング技術」の開発
- 密集配置した小形垂直軸風車のウインドファームに関する数値流体力学解析と風洞実験
- リーマン面の正則写像の研究－把手条件の拡張と応用
- 性質の異なるビッグデータを結び付けた地方公共交通の利用実態の解明手法の開発
- ベトナムの農業水利施設へのストックマネジメント導入の可能性について

総件数 28 件 総金額 30,291,300 円

◇受託研究

- ICTを活用した農業生産技術高位平準化支援システム改修等業務
- 三豊市・香川高等専門学校連携事業
- 生活シーンを問わない付け爪型ウェアラブル脈波計による無拘束センシング
- 三豊市・香川高等専門学校連携事業（AI・人工知能サマースクール）

総件数 4 件 総金額 11,696,000 円

◇共同研究

やる気を引き出す家庭学習管理システムの開発と評価

段ボール製飛行機の共同研究

LED信号機の着氷・着雪対策技術の確立

農業用水利施設に適用可能な可搬魚道の開発に関する研究

リサイクル家電からの有価金属の抽出手法の開発

天井クレーンの防災対策に関する研究

光ファイバーFBG素子の応用に関する研究

電磁交番攪拌鋳造に関する数値解析

マルチコプターと自走式点検機を用いた電力線腐食診断に関する研究

堆積岩の特性と地層内バイオメタン生産技術開発に関する研究

打楽器専用チューニングセンサの開発

ディープラーニングと光学的手法を用いた送変電設備の監視保守システムの開発

小型ドローン用水難救助浮き具発射装置の製作

サイバーセキュリティ対策のための研究開発および情報共有

南海地震に備えた四国高専間連携による地盤系防災教育・研究の推進

VR技術を利用した宇宙線教育ツールの開発

高感度呼吸センサを用いた行動計測システムによる高齢者の状態把握

光学的手法を用いた地域ニーズ解決プロジェクト

他 15 件 総件数 33 件 総金額 11,696,000 円

◇その他競争的資金・助成金

県内就職を促進するための学生の県内企業認知度向上事業、低学年PBL教育を利用した県内企業・地域等との連携事業、地域企業－学生・教職員－自治体が連携した地域シーズ創出事業

うどん県で働くプロジェクト～能動学修による地域の魅力発見

農業水路に着脱可能な可搬式魚道の開発と水田生態系保全における活用方法の確立

高松市こども未来館科学体験教室開催業務委託

革新的技術を集約した次世代型閉鎖循環式陸上養殖生産システムの開発と日本固有種サクラマス類の最高級ブランドの創出

超小型衛星開発を通じた高専ネットワーク型宇宙人材育成

アユの遡上環境改善に有効な簡易魚道の運用方法の検討

Antibubbleを応用した気泡への粒子付着プロセスのその場観察手法の確立

パウリ原理を取り入れた量子分子動力学模型による原子核の構造変化及び反応シミュレータ開発

平成30年7月西日本豪雨災害調査

流体解析を活用したエコカーの燃費向上に関する研究

居住選択に関する意識調査からみる中心市街地の都市基盤整備のあり方に関する研究

—高松市 丸亀町商店街をケーススタディとして—

南海トラフ巨大地震を想定した香川県による広域支援の可能性分析

高齢者・在宅介護者の地域ケアシステムの開発

画像処理技術を用いた安価な全方位 γ 線ホットスポット検出システムの開発

エネルギーのベストミックスを学ぶスロットカー教材の開発

センサ工学/基礎工学実験

高次統計量制御スペース信号表現に基づく協創型音響センシング及びその社会システム応用

類似火星大気中における交流GTA溶接実験－低圧、炭酸ガス雰囲気中におけるブローホール発生機構の解明－

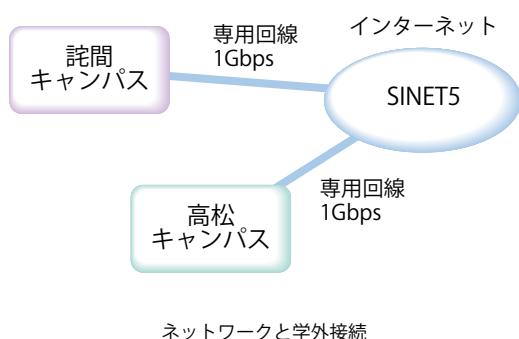
衛生指標微生物の除去を強化するDHS下水処理システムの開発

総件数 20 件 総金額 16,142,738 円

情報処理施設

◇情報インフラストラクチャ

学外には、各キャンパスから学術情報ネットワーク (SINET) と 1Gbps の専用回線による接続を行っています。



ネットワークと学外接続

◇情報基盤センター

・高松キャンパス

ハードディスクイメージ自動復帰方式のクライアントコンピュータが、第一演習室（47 台）、第二演習室（50 台）、第三演習室（18 台）とマルチメディア教室（54 台）に設置されており、コンピュータリテラシー教育、プログラミング教育および工学系アプリケーションソフトを使った演習授業などに使われています。



高松キャンパス 第一演習室



高松キャンパス 第二演習室



高松キャンパス 第三演習室

・詫間キャンパス

ハードディスクイメージ自動復帰方式のクライアントコンピュータが、第2演習室（53 台）、マルチメディア・ラーニング・ラボ（49 台）、高度情報教育ラボ（50 台）、サイバー・ラボ（49 台）に設置されており、コンピュータ・リテラシー及び ICT 教育に幅広く利用されています。また、全学生が学内のどこからでも電子メールやインターネットの利用ができる環境となっています。



詫間キャンパス 第2演習室



詫間キャンパス サイバー・ラボ



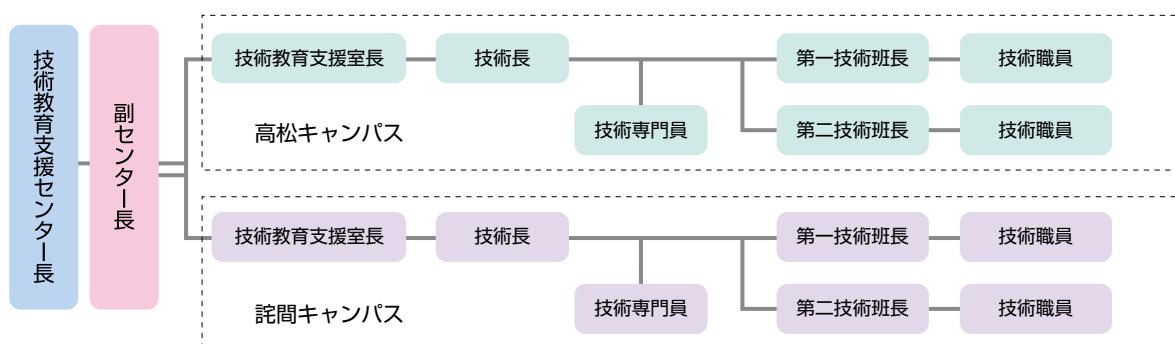
詫間キャンパス 高度情報教育ラボ

技術教育支援センター

技術教育支援センターは、技術・教育に関する専門的支援業務を組織的かつ効果的に処理するとともに、地域への技術指導及び出前授業等を通して社会貢献に資することを目的としています。主な業務は次の通りです。

- ・学生の実験、実習、卒業研究、行事の技術指導及び安全確保
- ・情報処理、情報ネットワークの支援
- ・教育、研究及び社会貢献に関する技術支援
- ・技術資料の作成、保管及び提供、機器、薬品等の管理並びに災害防止
- ・技術の継承、技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画、実施等
- ・地域連携事業及び各種イベントへの技術協力

技術教育支援センターは、高松キャンパス技術教育支援室及び詫間キャンパス技術教育支援室で構成されています。



◇高松キャンパス技術教育支援室

機械系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第一技術班と、電気・情報・建設系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第二技術班で構成されています。



建設環境工学科



公開講座

◇詫間キャンパス技術教育支援室

電子・通信系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第一技術班と、情報系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第二技術班で構成されています。



ディジタル回路製作実験



公開講座

◇スタッフ

	室長	技術長	技術専門員	第一技術班		第二技術班
高松キャンパス 技術教育支援室	木原 茂文	寺嶋 昇		班長	向井公人（技術専門職員）	吉成知己（技術専門職員）
				技術専門職員	丸笛憲志、大賀祐介、桟敷 剛	小野真二、岡崎芳行、向井しのぶ、中島香織
				技術職員		田辺絵理奈、中山一平
詫間キャンパス 技術教育支援室	澤田 士朗	垂水 良浩	村上 浩 西川 和孝	班長	村上 浩（兼務）	西川和孝（兼務）
				技術専門職員	毛利千里	河口尚宏、新宅宏志
				技術職員	福田清人、境 祐仁	

学生相談等施設

◇学生相談室（両キャンパス）

学生相談室では、学校生活においての悩みや日常生活上の個人的な悩みを抱える学生、又は不適応状態に陥っている学生に対して、必要に応じて指導助言あるいはカウンセリング等を行って、学生一人ひとりが有意義で充実した学生生活を送れるように支援しています。

臨床心理士の資格を持つカウンセラーの先生が定期的に来校して、学生相談室で相談を受け付けています。また、校内では教職員の中から選ばれた学生相談室員が、常時相談を受け付けています。



高松キャンパス 学生相談室



詫間キャンパス 学生相談室

◇キャリアサポートセンター（両キャンパス）

キャリアサポートセンターでは、学生への就職・進学支援やインターンシップ等のキャリア支援を主目的として、各種企画の実施と情報収集および提供を行っています。また、キャリアサポートセンター室と資料室には、求人票、会社案内資料や大学案内等の進路に関する資料をそろえています。

（I）就職・進学支援

- （1）就職のための合同企業説明会の実施
- （2）履歴書の書き方講座の開講
- （3）面接実技研修の実施
- （4）S P I 対策講座の開講
- （5）進路についての懇談会の実施

（II）キャリア支援

- （1）インターンシップ説明会の実施
- （2）香川県技術士会による出前授業の実施
- （3）県内企業人による技術出前講座の実施
- （4）O B 等による出前講座や企業説明会の開催



面接実技風景



合同企業説明会



技術士会による出前授業風景



O Bによる出前授業風景

図書館

両キャンパスにはそれぞれ図書館が設置され、知の源であり、また、情報発信の場でもある図書館の役割を果たすために整備を図っています。平日は 20 時までですが、平日だけでなく、土曜日にも開館しています。学生・教職員以外の一般の方にも開放し、貸出サービスも実施しています。

高松キャンパス図書館

■ 開館時間

月～金 8:30～20:00 土 10:00～16:30
※長期休業中 月～金 8:30～17:00

■ 図書館利用状況

平成 30 年度	貸出冊数		計	学生 1 人当たり 貸出冊数
	学生	教職員・学外		
	5,376	1,683	7,059	5.9

DVD・ビデオ：1,221 タイトル

CD：2,318 タイトル

平成 30 年度購入：DVD 等 6 タイトル
CD 49 タイトル



閲覧室



視聴覚コーナー

■ 平成 30 年度末現在分類別蔵書冊数

分類	洋書	和書	計	内閣覧室		
				洋書	和書	計
0 (総記)	210	5,953	6,163	60	2,625	2,685
1 (哲学)	270	4,581	4,851	1	2,033	2,034
2 (歴史)	257	6,851	7,108	14	3,283	3,297
3 (社会科学)	529	9,096	9,625	11	4,307	4,318
4 (自然科学)	2,867	15,788	18,655	48	7,347	7,395
5 (技術工学)	2,498	24,730	27,228	232	12,372	12,604
6 (産業)	19	1,075	1,094	2	603	605
7 (芸術)	189	5,065	5,254	30	3,190	3,220
8 (言語)	1,844	3,716	5,560	801	2,012	2,813
9 (文学)	1,075	16,409	17,484	46	12,123	12,169
計	9,758	93,264	103,022	1,245	49,895	51,140

詫間キャンパス図書館

■ 開館時間

月～金 8:30～20:00 土 10:00～16:30
※長期休業中 月～金 8:30～17:00

■ 図書館利用状況

平成 30 年度	貸出冊数		計	学生 1 人当たり 貸出冊数
	学生	教職員・学外		
	5,436	1,708	7,144	8.3

DVD・ビデオ：1,037 タイトル

CD：2,016 タイトル

平成 30 年度購入：DVD 等 2 タイトル
CD 1 タイトル



閲覧室



視聴覚コーナー

■ 平成 30 年度末現在分類別蔵書冊数

分類	洋書	和書	計	内閣覧室		
				洋書	和書	計
0 (総記)	543	7,583	8,126	169	4,034	4,203
1 (哲学)	256	3,047	3,303	42	1,853	1,895
2 (歴史)	210	5,916	6,126	18	3,932	3,950
3 (社会科学)	181	6,647	6,828	8	3,921	3,929
4 (自然科学)	2,051	14,784	16,835	260	9,672	9,932
5 (技術工学)	1,808	17,339	19,147	270	7,307	7,577
6 (産業)	55	1,256	1,311	4	745	749
7 (芸術)	26	3,687	3,713	13	2,923	2,936
8 (言語)	3,331	4,143	7,474	2,901	2,571	5,472
9 (文学)	714	15,315	16,029	178	10,225	10,403
計	9,175	79,717	88,892	3,863	47,183	51,046

学生寮

◇清雲寮（高松キャンパス）

高松キャンパスには「清雲寮」という学生寮があり、南寮、北寮、西寮の3つの建物があります。南寮と北寮には男子学生が、西寮には女子学生がそれぞれ生活しています。

- 南寮（男子高学年用） 鉄筋コンクリート造4階建（一部3階）1人部屋(9m²)：57室、1人部屋(13.5m²)：2室、2人部屋(24m²)：1室、2人部屋(13.5m²)：1室
- 北寮（男子低学年用） 鉄筋コンクリート造3階建 1人部屋(11m²)：29室、1人部屋(15m²)：1室、2人部屋(15m²)：24室
- 西寮（女子寮） 鉄筋コンクリート造3階建 1人部屋(10m²)：23室、2人部屋(15m²)：8室
- 共同室 学習室、日本語演習室、補食談話室、洗面洗濯室、浴室、食堂

■入寮者数

学年	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
寮生数	43 (6)	43 (1)	35 (5) (2)	28 (8) (1)	25 (4) (3)	1 (1)	175 (25) (6)

※()内は女子学生、< >内は外国人留学生でそれぞれ内数

令和元年5月1日現在



清雲寮（南寮）



清雲寮（西寮・北寮）



新入寮生歓迎会

◇七宝寮及び紫雲寮（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、「七宝寮」と「紫雲寮」という学生寮があります。3つの建物で構成されていますが、七宝寮に男子学生が、紫雲寮に女子学生がそれぞれ生活しています。

- 七宝寮（男子寮） 2棟 鉄筋コンクリート造4階建 1人部屋(13.5m²)：26室、2人部屋(27m²)：9室
3棟 鉄筋コンクリート造5階建 1人部屋(9m²)：46室、2人部屋(18m²)：69室
- 紫雲寮（女子寮） 4棟 鉄筋コンクリート造5階建 1人部屋(9m²)：12室、2人部屋(18m²)：38室
- 共同室 自習室、パソコンルーム、談話室、補食談話室、洗面洗濯室、浴室、食堂

■入寮者数

学年	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
寮生数	42 (10)	33 (9)	44 (3) (3)	37 (7) (2)	42 (8) (2)	17 (1) (1)	215 (38) (8)

※()内は女子学生、< >内は外国人留学生でそれぞれ内数

令和元年5月1日現在



七宝寮・紫雲寮



寮生球技大会



寮室

福利厚生施設

◇自彊会館（高松キャンパス）じきょう

本会館は、学生及び職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動等の発展を助成することを目的として、昭和57年4月に建設されました。会館には、食堂（150席）、コンビニ機能店、保健室、学生会室等があります。

売 店	平日	8：30～18：00
食 堂	平日	11：00～13：30



自彊会館

◇福利センター（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、学生及び教職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動等を助成し、学校生活を豊かにすることを目的とした福利センターがあります。この施設には研修室、オーディオルーム、売店、食堂、談話室及び学生会事務局があります。主な施設の利用時間は次のとおりです。

売 店	平日	10：30～20：00
	平日の前の休日	18：00～20：00
食 堂	平日のみ	10：30～13：30
談話室	終日	



福利センター



職員集会所（高松キャンパス）



職員集会所（詫間キャンパス）

◇職員集会所（高松キャンパス）

高松キャンパスには、宿泊も可能な職員集会所があります。教職員の業務に必要なLANの設備もあり、茶華道部、囲碁・将棋部も使用しています。

◇職員集会所（詫間キャンパス）

詫間キャンパスは、教職員の研修等に使用する職員集会所（夕凪荘）があります。この施設は、学生の課外活動として、演劇部や茶道部が使用しています。

◇和敬館（高松キャンパス）

本施設は、健全にしてかつ規律ある学生生活の向上を図り、豊かな人間性を育成することを目的として、昭和58年3月に建設されました。施設には、和室（3室）、シャワー室、洗面所及び便所等合宿研修に必要な諸設備が整備されています。



和敬館

◇合宿研修所（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、健全にしてかつ規律ある学生生活の向上を図り、豊かな人間性を育成することを目的とした合宿研修所があります。この施設には研修室、談話ホール、浴室及び補食室等の設備があり、長期休業期間中に課外活動の合宿研修等に使用しています。



合宿研修所

学生数と志願者状況

◇学生数 令和元年5月1日現在

■本科

学 科 名	区分	入学定員	現 員					計
			1年	2年	3年	4年	5年	
新 課 程	機械工学科	40	42(2)	43	45(3)[1]	39(2)	40(1)	209(8)[1]
	電気情報工学科	40	42(6)	46(5)	45(5)	41(4)	43(7)	217(27)
	機械電子工学科	40	42(3)	42(4)	41(5)	39(3)	43(4)[1]	207(19)[1]
	建設環境工学科	40	42(9)	41(9)	42(10)[1]	44(13)[1]	41(9)[2]	210(50)[4]
	通信ネットワーク工学科	40	42(10)	40(10)	41(3)[1]	43(11)[1]	34(8)	200(42)[2]
	電子システム工学科	40	42(10)	43(9)	46(7)[1]	45(5)	39(6)[1]	215(37)[2]
	情報工学科	40	43(9)	40(5)	47(5)[1]	32(5)[1]	39(8)[1]	201(32)[3]
	計	280	295(49)	295(42)	307(38)[5]	283(43)[3]	279(43)[5]	1,459(215)[13]

■専攻科

専 攻 名	区分	入学定員	現 員		計
			1年	2年	
創造工学専攻	24	41	32(5)	73(5)	
電子情報通信工学専攻	18	14(2)[1]	21(2)	35(4)[1]	
計	42	55(2)[1]	53(7)	108(9)[1]	

() 内は女子学生で内数
[] 内は外国人留学生で内数

◇入学志願者数と入学者数

■本科

※入学志願者／入学定員

平成31年度 (2019年度)	区分	入学志願者数	入学者数	倍 率
	機械工学科	67	42	1.7
	電気情報工学科	69	42	1.7
	機械電子工学科	55	42	1.4
	建設環境工学科	54	42	1.4
	通信ネットワーク工学科	61	42	1.5
	電子システム工学科	46	42	1.2
	情報工学科	51	41	1.3
	計	403	293	1.4

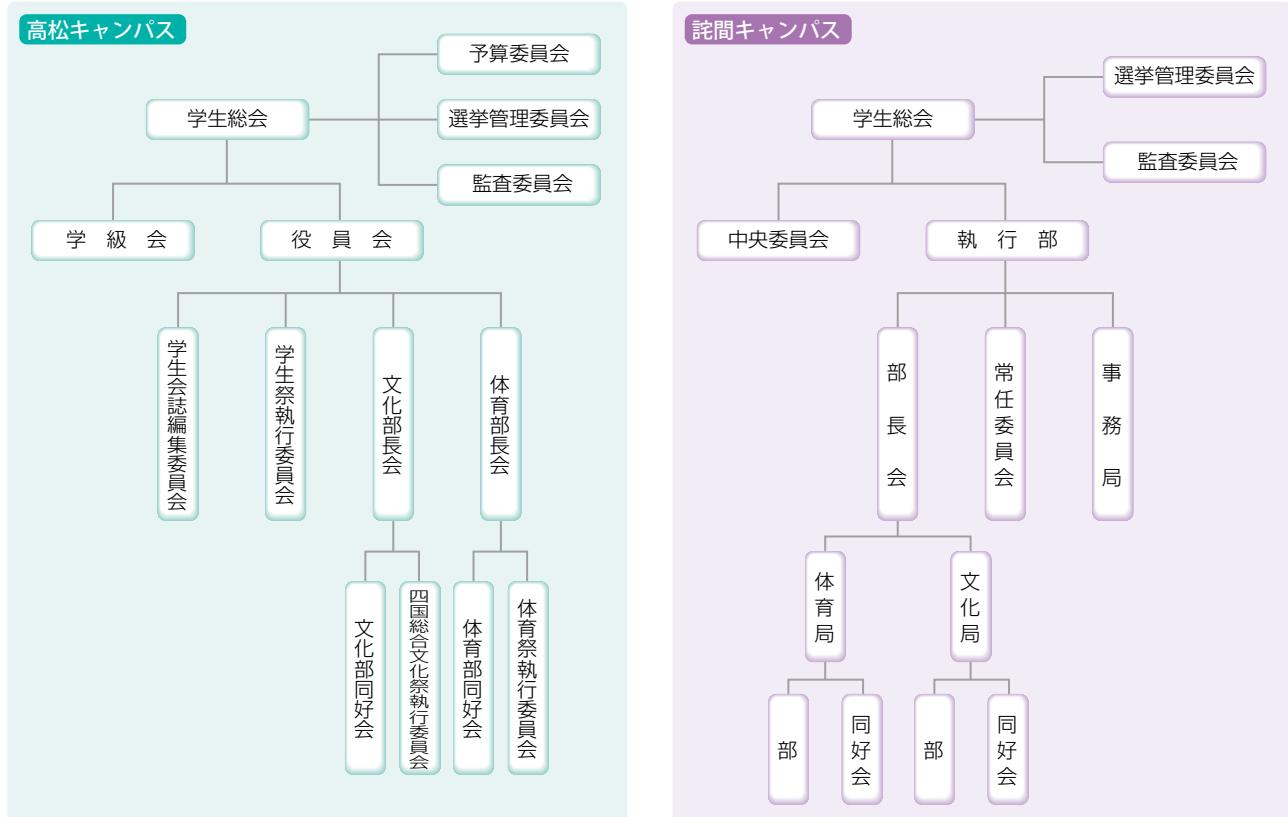
■専攻科

※入学志願者／入学定員

平成31年度 (2019年度)	区分	入学志願者数	入学者数	倍 率
	創造工学専攻	53	41	2.2
	電子情報通信工学専攻	34	14	1.9
	計	87	55	2.1

学生組織

◇学生会組織図



◇部活動及び同好会

[高松キャンパス]

■ 体育系クラブ	■ 文化系クラブ
野球部	写真部
バスケットボール部	吹奏楽部
ソフトテニス部	E・S・S
バレー ボール部	軽音楽部
卓球部	情報システム研究部
柔道部	美術部
剣道部	合唱団フローエ・テーネ
陸上競技部	漫画研究部
サッカー部	機械システム研究部
ヨット部	次世代自動車研究部
水泳部	茶華道部
バドミントン部	サイエンスクラブ
テニス部	囲碁・将棋部
ハンドボール部	宇宙開発研究部

■ 同好会

文芸同好会

[詫間キャンパス]

■ 体育局

【部】	少林寺拳法部
野球部	バドミントン部
バスケットボール部	テニス部
ソフトテニス部	【同好会】
バレー ボール部	応援団同好会
卓球部	
柔道部	
剣道部	
陸上部	
サッカー部	
ヨット部	
水泳部	
空手部	
トレッキング部	

■ 文化局

【部】	模型同好会
吹奏楽部	文芸同好会
無線部	演劇同好会
E S S	S P O T
将棋部	
茶道部	
軽音楽部	
S J R C	
【同好会】	
写真同好会	
書道同好会	
情報総合研究会	
絵画同好会	



全国高専ロボコン2018四国地区大会 優勝



四国高専体育大会バスケットボール 優勝



全国高専第29回プログラミングコンテスト 最優秀賞受賞

進路状況

◇本科生

学 科		卒業者数	進学者数	就職者数	その他	求人会社数
高 松	機械工学科	36	12	22	2	723
	電気情報工学科	34	16	18	0	
	機械電子工学科	33	21	12	0	
	建設環境工学科	44	24	20	0	
	小 計	147	73	72	2	
詫 間	通信ネットワーク工学科	37	8	29	0	613
	電子システム工学科	40	12	28	0	
	情報工学科	35	17	18	0	
	小 計	112	37	75	0	
合 計		259	110	147	2	

◇専攻科生

専 攻		修了者数	進学者数	就職者数	その他
高 松	創造工学専攻	33	13	20	0
詫 間	電子情報通信工学専攻	22	5	17	0
	合 計	55	18	37	0

◇大学編入先一覧 本科生

進 学 先	高 松	詫 間	合 計					
	機械	電気	機電	建設	通信	電子	情報	合計
香川高専専攻科創造工学専攻	6	9	14	12				41
香川高専専攻科電子情報通信工学専攻				5	6	3		14
豊橋技術科学大学	2		4	3	1	2	1	13
長岡技術科学大学	1	1		4				6
愛媛大学		1	1	1		1		4
岡山大学		2			2			4
香川大学	1		2			1		4
九州工業大学					3		3	
熊本大学		1						1
高知大学			1				1	

進 学 先	高 松	詫 間	合 計					
	機械	電気	機電	建設	通信	電子	情報	合計
島根大学						1		1
富山大学							1	1
千葉大学							1	1
筑波大学							1	1
東北大学						1		2
徳島大学					1		1	6
福井大学	1							1
三重大学	1							1
立命館大学						1	2	3

◇大学院入学先一覧 専攻科生

進 学 先	高 松	詫 間	合 計
長岡技術科学大学大学院		1	1
愛媛大学大学院		1	1
大阪大学大学院	2		2
岡山大学大学院	2		2
九州大学大学院	1	1	2
京都大学大学院	1		1
筑波大学大学院	2		2

進 学 先	高 松	詫 間	合 計
東京工業大学大学院		1	1
東北大学大学院		1	1
徳島大学大学院		1	1
奈良先端科学技術大学院大学			1
首都大学東京大学院		1	1
富山県立大学大学院		1	1

◇就職先一覧

就職先	高松		詐間		合計
	機械 電気	機 電 建 設	専攻	通信 電子	
アイサワ工業(株)		1			1
旭化成(株)				1	1
(株)アルパック					1
e B A S E (株)				1	1
(株)石垣	1				1
出光興産(株)	1	1		2	4
(株)エイト日本技術開発	1	1			2
ANAベースメンテナンステクニクス(株)	1				1
(株)STNet				2	2
NECネットエスアイ(株)			1		1
(株)NHKアイテック			2	1	3
エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)		1			1
(株)エヌ・ティ・ティ エムイー			1		1
NTTコム エンジニアリング(株)	1		1		2
NTTコムソリューションズ(株)			1		1
(株)エヌ・ティ・ティ ネオメイト			1		1
(株)NTTフィールドテクノ		1	2		3
(株)OGCT S	1				1
大紀商事(株)	1				1
大阪ガス(株)		1			1
大阪シーリング印刷(株)	1				1
(株)大阪防水建設社		1			1
開発電子技術(株)				1	1
香川県	1	1	2		4
香川県警察	1				1
学習塾V i e w	1				1
川田工業(株)		1			1
関西電力(株)			1	1	2
(株)キッツ		1			1
キヤノン(株)	1				1
キヤノンメディカルシステムズ(株)			1		1
京セラコミュニケーションシステム(株)		1	1	2	
協和テクノロジーズ(株)			1		1
極東開発工業(株)				1	1
倉敷市	1				1
(株)クラレ		2			2
(株)クロオ	1				1
(株)ケイ・オブティコム				1	1
K D D I (株)				1	1
K D D I エンジニアリング(株)		1		1	
高知さんさんテレビ(株)				1	1
向洋電機(株)				1	1
国土交通省四国地方整備局		1	1		2
サトーホールディングス(株)	1				1
サントリープロダクト(株)	1				1
三和エレクトロニクス(株)			1	1	2
(株)シーエーシー	1				1
(株)ジェイアール西日本テクノス				1	1
J X エンジニアリング(株)		1			1
JFEステール(株)西日本製鉄所			1		1
JFEプラントエンジ(株)		1			1
(株)ジェイテクト	1				1
四国化成工業(株)		1			1
四国管区警察局			1		1
四国計測工業(株)			1	2	3
四国電力(株)	1	2	1	2	3
(株)四国日立システムズ				1	1
四国旅客鉄道(株)				1	2
CTCシステムマネジメント(株)			1		1
(株)G-T E K T	1				1
四変テック(株)	1		2		1
島産業(株)	1				1
(株)ジャスト西日本		1			1
(株)JALエンジニアリング	1				1
ジョンソンコントロールズ(株)			1		1
神鋼テクノ(株)				1	1
(独)水資源機構			1		1
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)	1				1
ソニードジタルネットワークアリケーションズ(株)				1	1
ソフトバンク(株)				1	1
ダイキンエアテクノ(株)			1		1
ダイキン工業(株)				1	1
(株)タダノ	1	1			2
中国電力(株)		1		1	2
T O A (株)			1		1
テルモ(株)					1
電源開発(株)				1	1
(株)デンソーテクノロジ				1	1
(株)デンロコボレーション 丸亀工場				1	1
東京水道サービス(株)				1	1
東京都下水道サービス(株)				1	1
東芝ITサービス(株)					1
東洋炭素(株)					1
(株)ドコモCS四国				1	1
(株)トスバックスистемズ				1	1
(株)ナカキン					1
南海プライウッド(株)				1	1
西日本高速道路ファシリティーズ(株)				1	1
西日本高速道路メンテナンス関西(株)				1	1
日揮(株)				1	1
(一社)日本血液製剤機構				1	1
日本電気計器検定所 四国支社				1	1
日本ビラー工業(株)				1	2
バーソルR&D(株)				1	1
バナソニック(株)アプライアンス社	1				1
バナソニック(株)オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社					1
バナソニック(株)コネクティッドソリューションズ社				1	1
(株)日立産業制御ソリューションズ				1	1
(株)ヒューテック				1	1
(株)ヒロエンジニアリング				1	1
(株)富士通エフサス				1	2
富士電機(株)					1
古野電気(株)				1	1
本州四国連絡高速道路(株)				1	1
本田技研工業(株)	1				1
(株)マイスターエンジニアリング	2				3
(有)マツモト商事				1	1
丸亀市				1	1
丸亀電電テクニカ(株)				1	1
丸善織物(株)				1	1
マルホ発條工業(株)				1	1
三井E & Sシステム技研(株)				1	1
三菱ケミカル(株)				1	3
三菱重工業(株)					1
三菱重工冷熱(株)					1
三菱電機エンジニアリング(株)				2	2
三菱電機(株)受配電システム製作所				2	2
三菱電機(株)通信機製作所				1	1
三菱電機(株)姫路製作所				1	2
(株)ミライト・テクノロジーズ				1	1
(株)メンバーズ				2	3
(株)モビテック				1	2
山崎製パン(株)					1
ユニ・チャームプロダクト(株)				1	1
(株)横河プリッジホールディングス				1	1
四電エンジニアリング(株)				1	1
(株)四電技術コンサルタント				1	1
(株)四電工	1			1	2
リンク情報システム(株)				1	1
(株)レクザム				1	2

施設配置図

高松キャンパス



建物

① 管理部及び一般教育棟	3,638	⑯ 職員集会所	156
② 一般教育棟	1,104	⑰ クラブハウス①	150
③ 機械工学科棟	2,185	⑱ クラブハウス②	149
④ 機械実習工場	994	⑲ 風洞実験室	150
⑤ 電気情報工学科棟	1,644	⑳ 自彌会館	742
⑥ 機械電子工学科棟	848	㉑ 和敬館	250
⑦ 建設環境工学科棟及び講義棟	2,480	㉒ 清雲寮(北寮)	1,375
⑧ 専攻科棟	2,156	㉓ 清雲寮(南寮)	1,302
⑨ 図書館棟	1,843	㉔ 清雲寮(西寮)	512
⑩ 情報基盤センター	383	㉕ 清雲寮(食堂等)	400
⑪ 地域イノベーションセンター	606		
⑫ 第一体育館	990		
⑬ 第二体育館	880		
⑭ 武道場	346		
⑮ トレーニングセンター	160		

【面積m²】

屋外運動場

㉖ 水泳プール(6コース25m)
㉗ 運動場(トラック300m・サッカー場・ラグビー場)
㉘ ハンドボールコート(1面)
㉙ 人工芝テニスコート(1面)・ミニバスケットコート(1面)
㉚ 野球場(1面)
㉛ テニスコート(4面)
㉜ 人工芝テニスコート(1面)

土地

【区分】	【面積m ² 】
校舎・寄宿舎・運動場・職員宿舎敷地(別途借用地)	132,702 (424)
木太町職員宿舎敷地	1,092
昭和町職員宿舎敷地	1,074

財政

◇収入・支出 (平成 30 年度)

● 収入

(単位:千円)

運営費交付金	82,044
施設費	35,229
自己収入	
授業料及び入学金検定料	387,147
雑収入	7,965
産学連携等研究収入及び寄附金	50,177
その他補助金	7,565
計	570,127

● 支出

(単位:千円)

教育研究経費	417,426
一般管理費	67,520
施設費	35,229
産学連携等研究費及び寄附金事業費等	43,321
その他補助金	7,565
計	571,061

・詫間キャンパス



■建物

1 管理棟	1,194	16 寄宿舎ボイラー棟	84
2 第一学科棟	3,716	17 寄宿舎倉庫	50
3 第二学科棟	1,496	18 寄宿舎浴場	135
4 第三学科棟	2,177	19 第一体育館	825
5 マルチメディア棟	1,636	20 第二体育館	879
6 専攻科棟	948	21 武道場	304
7 第一講義棟	3,360	22 合宿研修所	204
8 第二講義棟	660	23 体育器具庫	144
9 図書館	1,661	24 プール付附属建物	60
10 寄宿舎管理棟	1,200	25 福利センター	662
11 七宝寮2棟	1,647	26 職員集会所	194
12 七宝寮3棟	2,652	27 七宝記念館	318
13 紫雲寮	1,350	28 守衛所	29
14 東共用棟	234	29 車庫	145
15 西共用棟	598	30 職員宿舎	1,093

【面積m²】

■屋外運動場

31 水泳プール(7コース25m)
32 野球グラウンド
33 陸上競技場(トラック300m)
34 テニスコート(6面)

■土地

【区分】	【面積m ² 】
校舎敷地・寄宿舎・運動場・職員宿舎	121,093

◇寄附金受入状況

●寄附金

【年度】	【件数】	【金額(単位:千円)】
平成24年度	24	14,420
平成25年度	26	18,060
平成26年度	28	15,851
平成27年度	26	14,808
平成28年度	31	14,309
平成29年度	27	11,756
平成30年度	33	12,298

ア ク セ ス マ ッ プ ACCESS MAP



詫間キャンパス アクセスルート

■JR 詫間駅からの交通

- ・詫間駅前バス停留所より三豊市コミュニティバス「詫間線大浜・名部戸行き」または「詫間三野線大浜行き」に乗車し、約20分後、「香川高専前」バス停にて下車

■JR 岡山・児島駅からの交通

- ・JR 岡山駅から JR 諏訪間駅間、約 90 分
 - ・JR 児島駅から JR 諏訪間駅間、約 60 分

■通学のための最寄り駅からの距離

- ・JR 詫間駅から詫間キャンパス間、約 6km

■高松自動車道からの交通

- ・(東方面よりお越しの場合) 三豊鳥坂インターチェンジより 約 20 分
 - ・(西方面よりお越しの場合) さぬき豊中インターチェンジより 約 30 分

■高松空港からの交通

- ・高松空港より車で約 60 分

高松キャンパス アクセスルート

■JR 高松駅からの交通

- ・JR 高松駅バスターミナル⑤番バス乗り場より「④由佐・空港行き」「④由佐・岩崎行き」「④池西・香南楽湯行き」のいずれかに乗車、約 25 分後「小山」①バス停にて下車、徒歩約 10 分
 - ・JR 高松駅バスターミナル⑤番バス乗り場より「⑦栗林公園・御殿・県立プール行き」乗車、約 30 分後「香川高専前」②バス停にて下車

■JR 岡山・児島駅からの交通

- ・JR 岡山駅から JR 高松駅間、約 60 分
 - ・JR 児島駅から JR 高松駅間、約 30 分

■通学のための最寄り駅からの距離

- ・JR 高松駅から高松キャンパス間、約 7km
 - ・JR 栗林駅から高松キャンパス間、約 5km
 - ・JR 端岡駅から高松キャンパス間、約 5km
 - ・③コトデン円座駅から高松キャンバス間、約 4km

■高松自動車道からの交通

- ・(西方面よりお越しの場合) 高松西インターチェンジより約 7 分
 - ・(東方面よりお越しの場合) 高松檀紙インターチェンジより約 5 分

■高松空港からの交通

- ・高松空港より車で約 20 分

説明キャンパス

〒769-1192 香川県三豊市詫間町香田 551
TEL 0875-83-8506

高松キャンパス

〒761-8058 香川県高松市勅使町 355
TEL 087-869-3811

香川高等専門学校 校歌

作詞: 藤本 友美
作曲: 永町 一樹

1. きのめほころぶときだいちのいきづかいさ
2. のびるわかばのときだしきいろいはながさくいたな
3. めぐみゆたかなときしかたくみをむすぶ
ぬきのみどりにはかぜすみわたりうみたおき
かくはるかなそらみのぞむたよないざ
がめるせとのうあおいさ
くましあくみなぎるおもいてみう
おきないもゆそじゆうなひとみうい
らいこめそうぞうはぐくみてゆうう
けつがんでうとうむすびひらいてゆうう
ざつどいこうがくひらいてゆうう
ころひとつなぎかがわこうせん

- | | | |
|---|---|---|
| <p>3 恵み豊かな時 固く実を結ぶ
眺める瀬戸の海 青いさざ波
期待萌ゆ</p> <p>いざ集い 工学 拓いてゆこう
心ひとつなぎ 香川高専</p> | <p>2 伸びる若葉の時 白い花が咲く
高く遙かな空 臨む太陽
大きな明日 その手に秘めて
受け継がん 伝統 結びてゆこう
心ひとつなぎ 香川高専</p> | <p>1 木の芽ほころぶ時 大地の息づかい
讃岐のみどりには 風澄み渡る
逞しく みなぎる想い
未来こめ 創造 育みゆこう
心ひとつなぎ 香川高専</p> |
|---|---|---|



香川高等専門学校

〒761-8058 香川県高松市勅使町355 TEL.087-869-3811

■高松キャンパス 〒761-8058 香川県高松市勅使町355 TEL.087-869-3811

■詫間キャンパス 〒769-1192 香川県三豊市詫間町香田551 TEL.0875-83-8506

URL <http://www.kagawa-nct.ac.jp/>